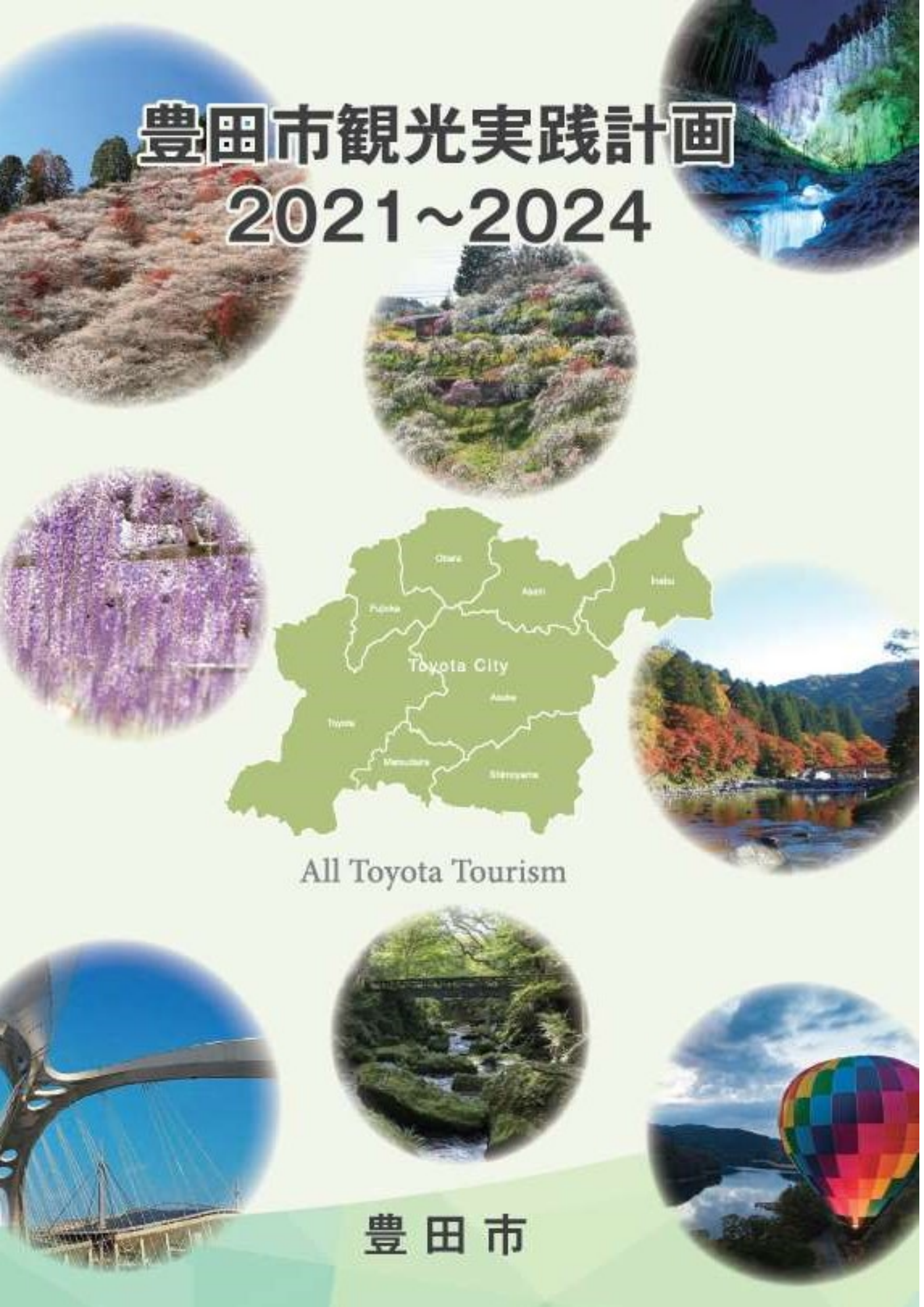


豊田市観光実践計画
2021~2024

豊田市

豊田市観光実践計画 2021～2024

ー　目次　ー

第１章　計画の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
1-1 計画の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
1-2 計画の位置づけ及び策定期間・・・・・・・・・・・・・・・・1
1-3 上位・関連計画における観光振興の方針・・・・・・・・・・2

第２章　豊田市の観光の現状と課題・・・・・・・・・・・・ 4
2-1 国の観光の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
2-2 愛知県の観光の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
2-3 豊田市の観光の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
2-4 豊田市の外部環境を取り巻く変化・・・・・・・・・・・・・11
2-5 豊田市観光実践計画 2018-2020 の評価・・・・・・・・・・12
2-6 これからの観光振興に向けた課題・・・・・・・・・・・・・13

第３章　観光振興の基本的な考え方・・・・・・・・・・・・ 15
3-1 基本理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
3-2 計画の推進体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
3-3 計画の目標値・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
3-4 観光振興の主なターゲット・・・・・・・・・・・・・・・・・18
3-5 課題に対する取組の方向性（柱）・・・・・・・・・・・・・ 19
3-6 取組の方向性（柱）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

第４章　具体的な取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
4-1 ニーズに合った観光の魅力の再創出・・・・・・・・・・・・23
4-2 受入環境整備と人材育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
4-3 観光客のニーズを踏まえた情報発信・・・・・・・・・・・・29
4-4 観光推進体制の構築・強化・・・・・・・・・・・・・・・・・30

資料編・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
資料１ 計画の策定経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
資料２ 豊田市観光実践計画 2021-2024 策定委員・・・・・・・32
資料３ 地区観光会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
資料４ 観光に関する各種調査結果等・・・・・・・・・・・・・・37

第１章　計画の概要

1-1　計画の目的

本市は、平成 17（2005）年の市町村合併に伴い県下最大の面積を誇る都市となりました。それと同時に、紅葉の名所として知られる足助地区の香嵐渓や、春と秋に花を咲かせる小原地区の四季桜など、広大な山間部にある多種多様な観光資源を有する都市となりました。

現在、国では、観光を成長戦略の柱、地方再生の切り札として観光先進国に向けた取組を進めており、愛知県においても、観光をモノづくり産業などに次ぐ新たな戦略産業と位置づけています。

本市では、平成 30（2018）年に策定した「豊田市観光実践計画 2018-2020」（以下、「前計画」という。）において、『未来に向けて地域経済を活性化させる観光の振興～観光で人がかがやき、観光がまちを一つにする～』を基本理念に掲げ、豊田市、地区観光協会、一般社団法人ツーリズムとよた、観光事業者などが一体となって観光振興に取り組んできました。

前計画期間中には、「あいちデスティネーションキャンペーン※1」の実施に加え、「ラグビーワールドカップ 2019™」などの大規模イベントが開催されました。また、令和２（2020）年初頭からの新型コロナウイルスの流行により観光産業も多大な影響を受けるなど、観光を取り巻く環境は日々刻々と変化を続けています。

そこで、令和３（2021）年度以降も、これまでの振り返りを生かし、更なる観光産業の発展と地域資源を生かしたまちづくりの推進を実現するため、「豊田市観光実践計画 2021～2024」を策定します。

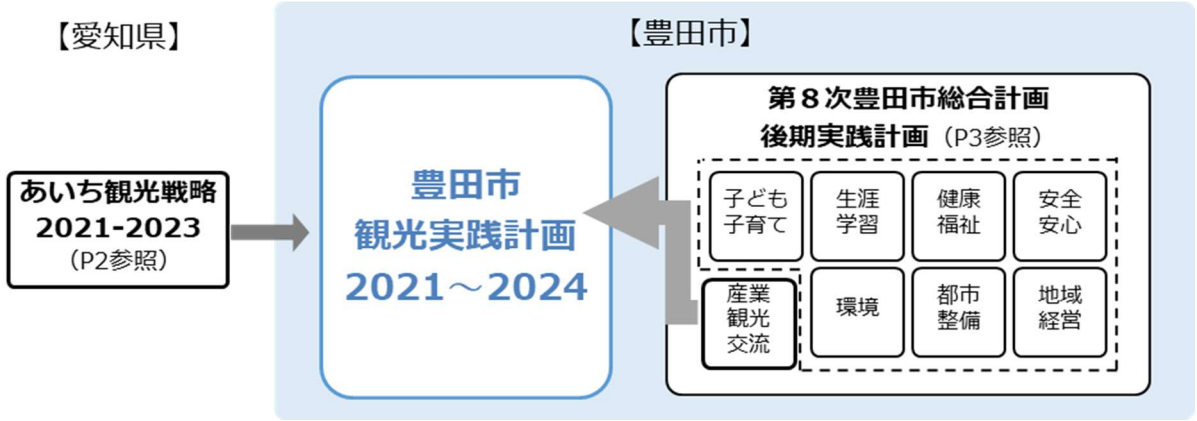
1-2　計画の位置づけ及び策定期間

（１）位置づけ

令和３年（2021）年に策定した「第８次豊田市総合計画　後期実践計画」の観光分野の実践計画として位置づけて取り組んでいきます。

（２）策定期間

策定期間は「第８次豊田市総合計画　後期実践計画」と連動させる形で、令和３（2021）年～令和６（2024）年とします。



※1　あいちデスティネーションキャンペーン　2018 年 10 月～12 月を中心に開催された、愛知県と JR グループが共同で実施する大型の観光キャンペーン。

1-3 上位・関連計画における観光振興の方針

（1）あいち観光戦略 2021-2023（愛知県）

「愛知県観光振興基本条例」に基づく観光施策を総合的かつ計画的に推進するための基本的な計画であり、令和２（2020）年 12 月に策定されました。

目指すべき姿を『～"Heart" of JAPAN セカンドステージ～あいち「ツウ」リズム™を推進し、独自の強みを発揮する「観光県」』とし、愛知ならではの多様な魅力を向上することで、変化するニーズへの対応と高付加価値を目指し、また愛知独自の強みを生かし、伸ばすことで競争力の向上を目指しています。

１．戦略の目的と期間

■戦略の目的：愛知県観光振興基本条例が掲げる「魅力ある活力に満ちた地域社会の実現及び県民生活の向上」に向けて、観光関連産業の振興を図る。

■戦略の期間：2021 年度～2023 年度（3 年間）

２．愛知の観光を取り巻く状況

■2030 年頃の社会経済情勢の展望　■観光の質的・量的変化

■2030 年頃までの大規模事業・プロジェクト　■「あいち観光戦略 2016-2020」の評価・課題

３．目指すべき姿

～"Heart" of JAPAN セカンドステージ～

あいち「ツウ」リズム™を推進し、独自の強みを発揮する「観光県」

◆多様な資源の磨き上げによる観光コンテンツの高付加価値化

◆愛知の独自の強みの活用・伸長による競争力の向上

４．施策立案・実施にあたっての基本的な方針

■独自の魅力・強みの強化　■地域連携・県民参加と SDGs の実践

■EBPM※1 の実践とデジタルの活用　■ウィズコロナ・ポストコロナへの適応

５．施策の柱

①あいち「ツウ」リズム™の推進　②受入れ体制の整備・充実

③観光交流拠点としての機能強化　④MICE の誘致・開催、Aichi Sky Expo の活用

⑤持続可能な観光の実現　⑥ウィズコロナ・ポストコロナへの対応

６．数値目標

観光消費額 1.0 兆円（うち外国人 2,500 億円）

＝【量】観光入込客数：全体 1.2 億人回（うち外国人 380 万人回）

×

【質】観光消費額単価：日本人 6,450 円、外国人 65,790 円

７．推進体制

※1　EBPM　政策は、科学的に認められた効果が期待されるものに限って実行すべきとする考え方。

（２）第８次豊田市総合計画（豊田市）

本市のめざすまちづくりの方向性を明らかにし、その実現に向けた取組を市民の皆さんと共働で進めるための最も基本となる計画であり、平成 29（2017）年３月に策定しました。

『つながる つくる 暮らし楽しむまち・とよた』を将来都市像に掲げ、2040 年を展望した「基本構想」と、それを実現するための施策を取りまとめた「実践計画」（2017 年度～2020 年度までを「前期実践計画」、2021 年度～2024 年度までを「後期実践計画」に位置付け）で構成されています。

「後期実践計画」における観光分野の基本施策としては、「多様な地域資源を生かした観光産業の振興」、「地域資源を生かしたまちづくりの推進」の２つの施策が設定されています。

【後期実践計画基本施策（観光分野）】

(1) 多様な地域資源を生かした観光産業の振興

めざす姿：観光が新たな主要産業の一つとして発展している

施策の柱：①戦略的観光マーケティング※1の促進

⇒ターゲットに応じた戦略的なプロモーションを実施するため、国内外の顧客ニーズをつかみ、地域資源を発掘し、磨き上げ、魅力的な商品を継続的に提供するとともに、マーケティングの結果を関係者間で共有することで、観光施策の展開に活用していきます。

②観光産業を支える人材の育成

⇒国内外の多様な観光客を受け入れるおもてなし風土を醸成するため、おもてなしの心と豊富な観光知識で応対することができる人材の育成に取り組むとともに、観光客のニーズの把握に努め、旅行者が快適に楽しめる受入環境を整えていきます。

(2) 地域資源を生かしたまちづくりの推進

めざす姿：住民主体のまちづくり活動が地域の魅力を高め、人やもの、経済の交流・循環を生み出している

施策の柱：①地域資源の発掘と磨き上げの促進

⇒地域の住民が主体となった地域資源を生かしたまちづくり活動の持続・拡大に向けて、活動の担い手の発掘や育成、活動に対する支援を行います。

②地域資源を支える基盤の拡充

⇒まちづくり活動の核となる地域資源（観光拠点など）において、魅力の向上や機能の維持のために、施設などの環境整備や修繕・更新を進めます。

※1　マーケティング　観光の目的地として選ばれ、観光客を増やすための施策・戦略。

第２章　豊田市の観光の現状と課題

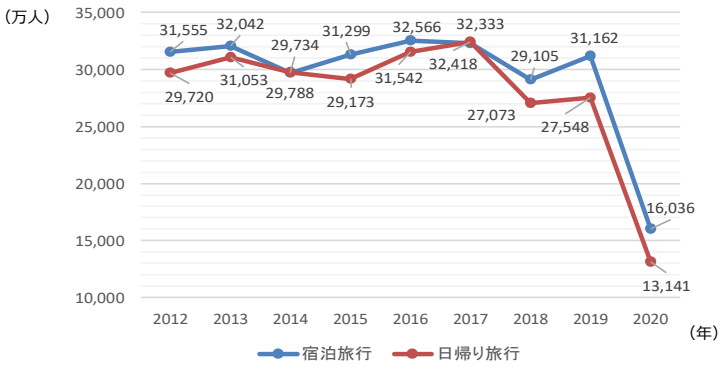
2-1　国の観光の現状

（１）国内観光客の推移

わが国の国内旅行延べ人数は、宿泊者数、日帰り旅行者数ともに平成 30（2018）年には大幅に減少したものの、令和元（2019）年にやや回復しています。令和 2（2020）年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、春先から夏にかけて外出自粛を余儀なくされたこともあり、旅行人数は大幅に減少しています。

ウィズコロナ時代においては、近場への観光やアウトドア系の観光が見直され、その傾向は新型コロナウイルス感染症の収束まで当面続くと想定されます。

日本人国内宿泊延べ人数、国内日帰り旅行延べ人数の推移

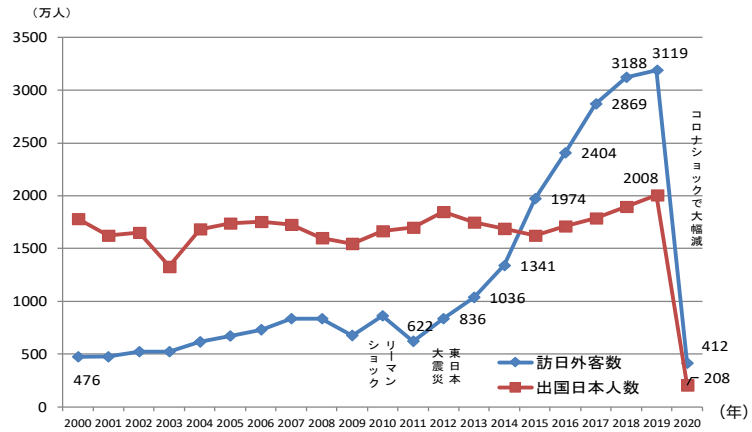


出典：旅行・観光消費動向調査（観光庁）

（２）インバウンドの推移

インバウンドについては、国が進めるビジット・ジャパン・キャンペーン※1等のプロモーションや、各国・地域に対する訪日要件の緩和（ビザ緩和、入国制限の緩和等）、また全国各地の受入環境整備が進んだこともあり、平成 23（2011）年の東日本大震災の年以降順調に増加し、訪日外国人旅行者数は過去最高の 3,188 万人まで増加しました。国は令和 2（2020）年の東京オリンピック・パラリンピックイヤーに 4,000 万人の目標を掲げていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で大幅に減少しました。

訪日外客数、出国日本人の推移



出典：日本政府観光局（JNTO）を基に作成

※1　ビジット・ジャパン・キャンペーン　日本政府観光局が展開する訪日外国人旅行者増加を目的とした訪日プロモーション事業。

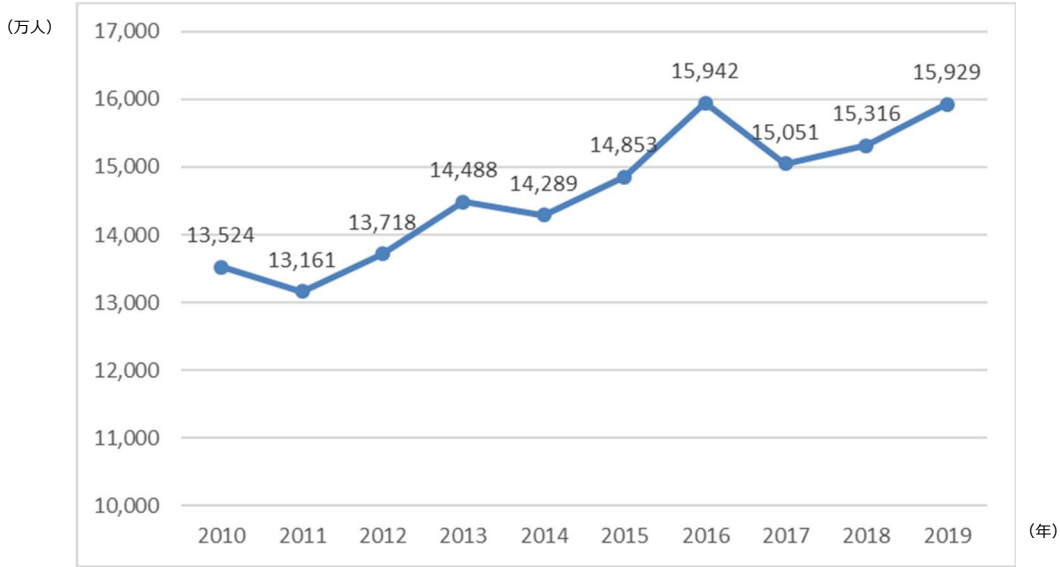
2-2 愛知県の観光の現状

（１）県内観光客の推移

愛知県観光レクリエーション利用者統計によると、令和元（2019）年の県内観光レクリエーション資源・施設利用者総数（観光入込客数）は、約 1 億 5,929 万人となり、直近 2 年間と比較して増加しています。2019 年は前年比で 4 %増加しており、その要因としては中部国際空港発着便の増加や新規施設の開業が挙げられます。

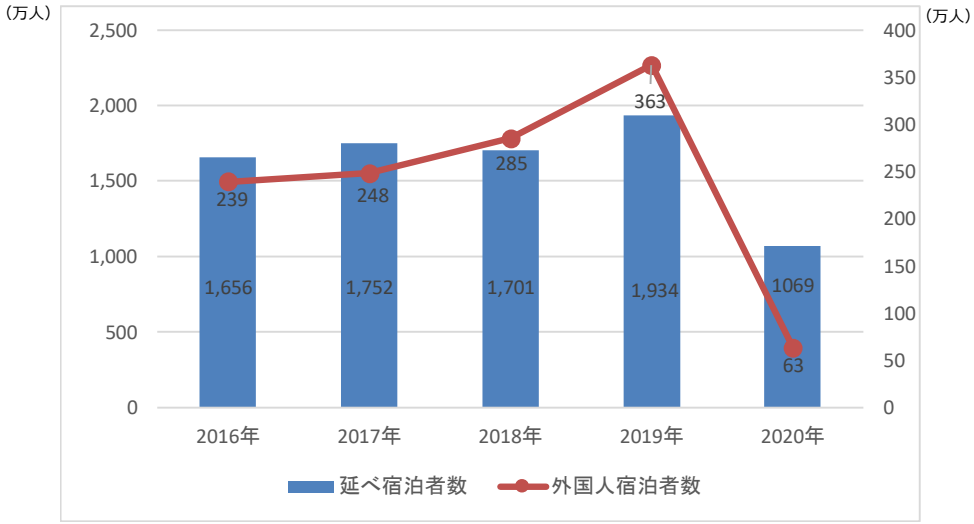
また、観光庁の宿泊旅行統計による愛知県内の延べ宿泊者数では、平成 30（2018）年に一旦減少したものの、令和元（2019）年には過去最高の約 1,934 万人を記録しました。そのうち、外国人延べ宿泊者数に注目すると、近年増加傾向が続いており、令和元（2019）年には過去最高の約 363 万人を記録しましたが、令和２（2020）年は新型コロナウイルス感染症の影響で大幅に減少しました。

愛知県観光レクリエーション利用者総数（観光入込客数）の推移



出典：愛知県観光レクリエーション利用者統計（愛知県）を基に作成

愛知県の延べ宿泊者数の推移

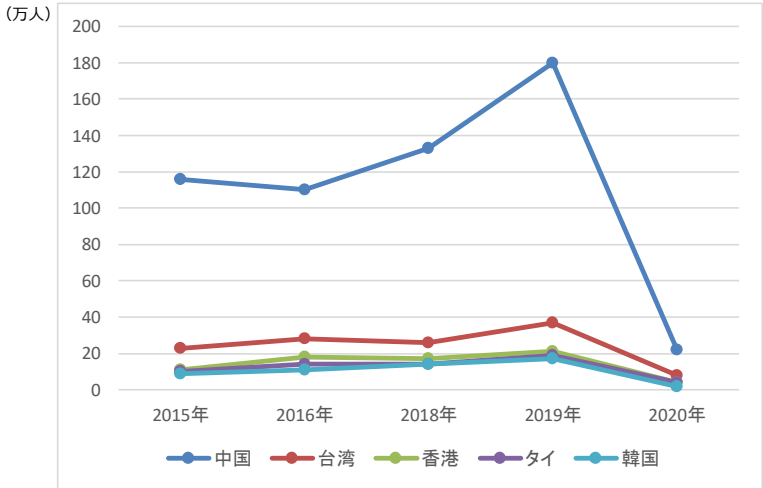


出典：宿泊旅行統計（観光庁）を基に作成

（2）インバウンドの推移（県内）

愛知県の外国人延べ宿泊者を国籍（出身地）別に見ると、中国からの宿泊者が大幅に伸びており、令和元（2019）年においては、愛知県全体の約半数となっています。次いで多いのが台湾の 37 万人、香港の 21 万人となっています。国籍（出身地）別の割合を全国と比較すると、愛知県は中国の比率が高く、他の国籍（出身地）においては、いずれも全国の割合よりも低くなっています。また、愛知県内の訪日外国人の規模が大きい東アジア４国籍・地域（中国、香港、台湾、韓国）の動態では、中国や台湾は団体比率や静岡を訪問する割合が多く、市内では香嵐渓を訪れる割合が比較的高いことが伺えます。

愛知県の国籍（出身地）別延べ宿泊者数の推移

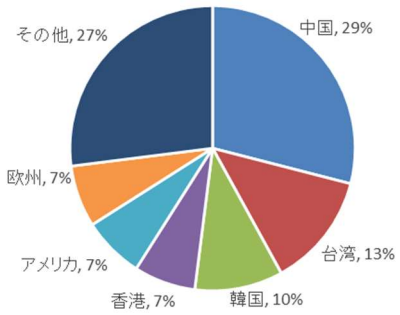


（万人）

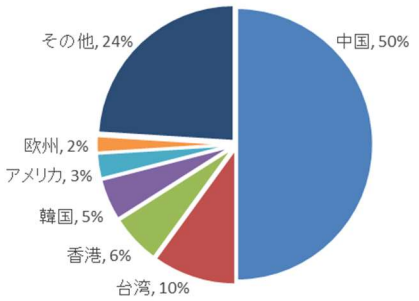
	2015年	2016年	2018年	2019年	2020年
中国	116	110	133	180	22
台湾	23	28	26	37	8
香港	11	18	17	21	4
タイ	10	14	14	19	4
韓国	9	11	14	17	2

出典：宿泊旅行統計（観光庁）を基に作成

■全国の国籍（出身地）別外国人延べ宿泊者数



■愛知県の国籍（出身地）別外国人延べ宿泊者数



出典：宿泊旅行統計（観光庁）を基に作成

愛知県の国籍（出身地）別の観光行動

構成比		施行形態団体比率	セットの訪問地		訪れた豊田市内の訪問地（回答数）			備考
			（上位３位）	（静岡比率）	香嵐渓	トヨタ会館	小原四季桜	
中国	49%	55.1%	東京（62.8%） 京都（62.8%） 大阪（62.8%）	35.4%	7.8% （38）	0.6% （3）	0.0% （0）	団体比率・静岡比率が高く、香嵐渓が大きい。
香港	6%	7%	岐阜（63.6%） 石川（33.3%） 大阪（28.3%）	10.1%	17.6% （11）	0.9% （1）	10.2% （6）	個人旅行にも関わらず香嵐渓、小原四季桜が多い。
台湾	10%	54%	岐阜（48.1%） 石川（26.7%） 富山（25.2%）	24.4%	26.3% （26）	3.6% （4）	3.6% （4）	団体比率・静岡比率が高く、香嵐渓が大きい。
韓国	6%	34%	大阪（38.4%） 東京（36.6%） 岐阜（29.5%）	5.4%	0.0% （0）	7.4% （43）	0.0% （0）	あまり周遊しない傾向

出典：平成 30 年愛知県訪日外客動向調査（愛知県）

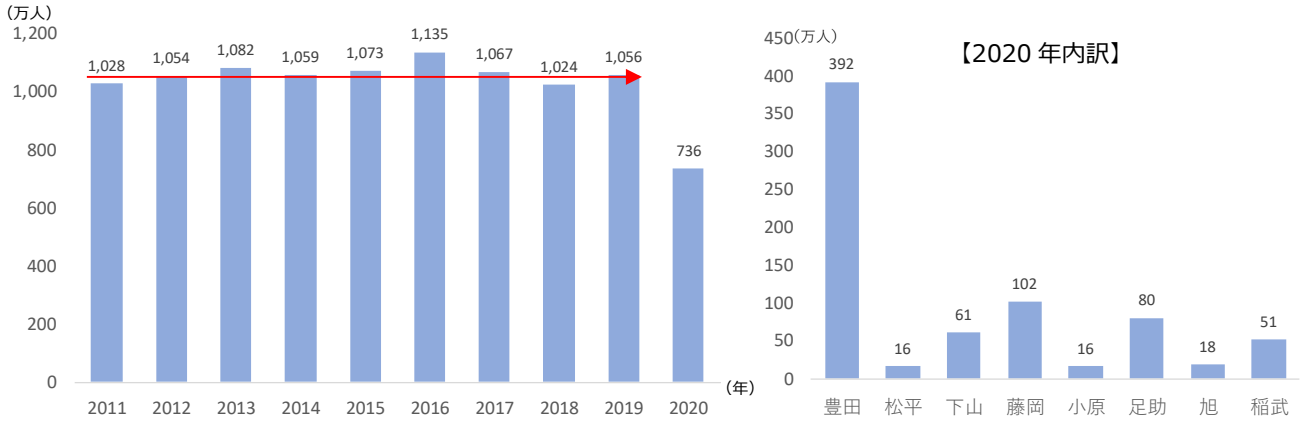
2-3 豊田市の観光の現状

（１）市内観光客の推移

愛知県観光レクリエーション利用者統計によると、豊田市の観光レクリエーション資源・施設利用者数（観光入込客数）は平成 21（2009）年以降 1,050 万人前後で推移しており、令和元（2019）年まではほぼ横ばい傾向となっています。直近 5 年間では平成 28（2016）年に豊田市美術館の企画展の好影響で大幅な増加となりましたが、令和 2（2020）年は新型コロナウイルス感染症の影響で、市内各地のイベントやお祭りが中止もしくは規模を縮小した開催となったため、前年比約 30%減少しています。

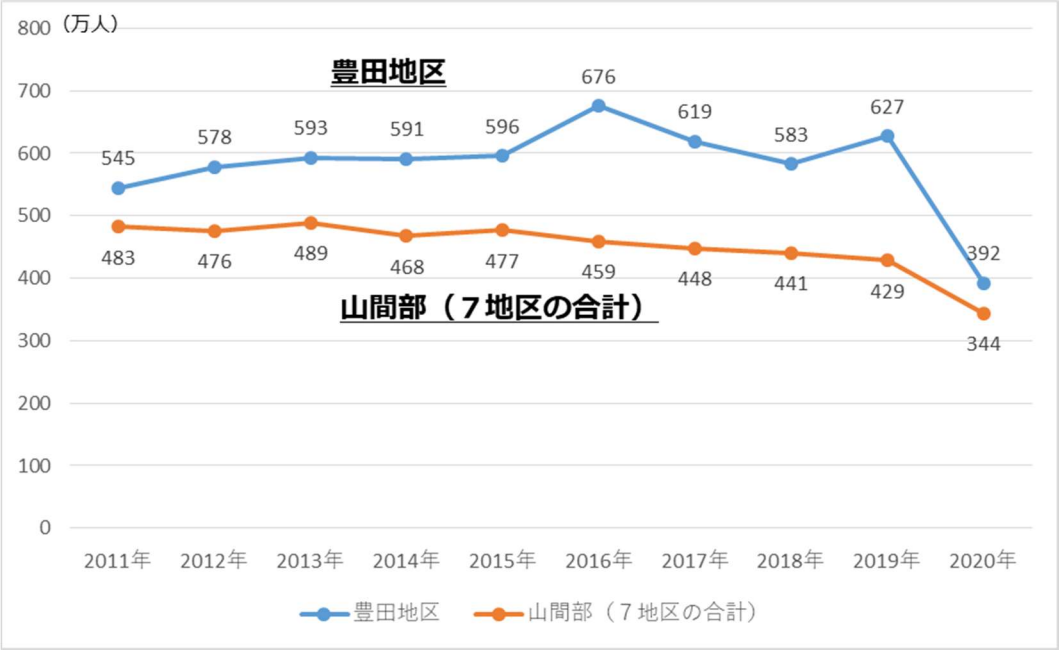
地区別では、豊田地区が全体の 6 割強を占めています。地区別の推移では、山間部のみで見てみると減少傾向となっています。

豊田市の観光レクリエーション利用者（観光入込客数）総数の推移（全市・地区別）



出典：愛知県観光レクリエーション利用者統計（愛知県）を基に作成

豊田市の観光レクリエーション利用者総数（観光入込客数）及び地区別推移



出典：愛知県観光レクリエーション利用者統計（愛知県）を基に作成

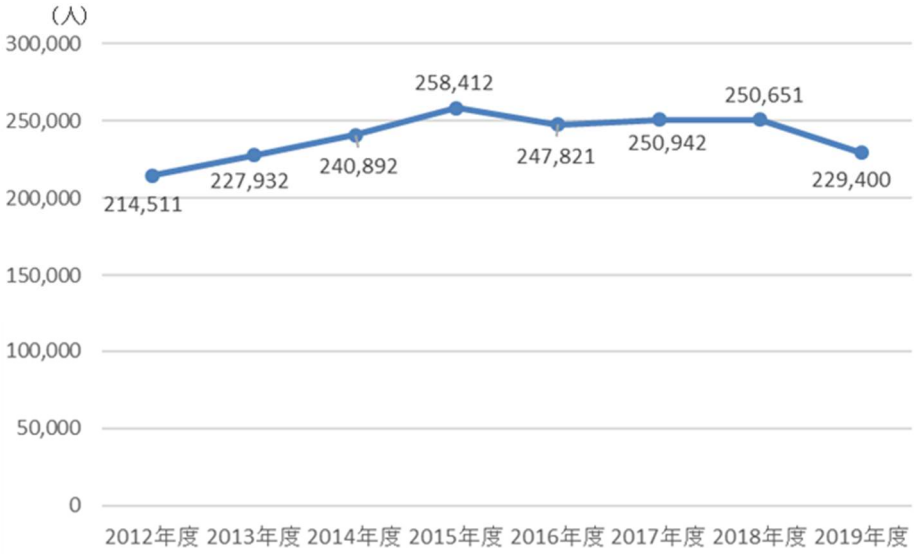
（２）市内宿泊者数の推移（国内・インバウンド）

豊田市実施の市内主要 10 施設における宿泊者数調査によると、日本人宿泊客数はここ数年約 25 万人前後で推移していましたが、令和元（2019)年度は年度末の新型コロナウイルス感染症の影響もあり、前年比８％ほど減少しています。

外国人の観光目的の宿泊者数はここ数年減少傾向でしたが、令和元（2019）年度はラグビーワールドカップ 2019™の影響で前年比 4.6%増の 9,932 人となっています。

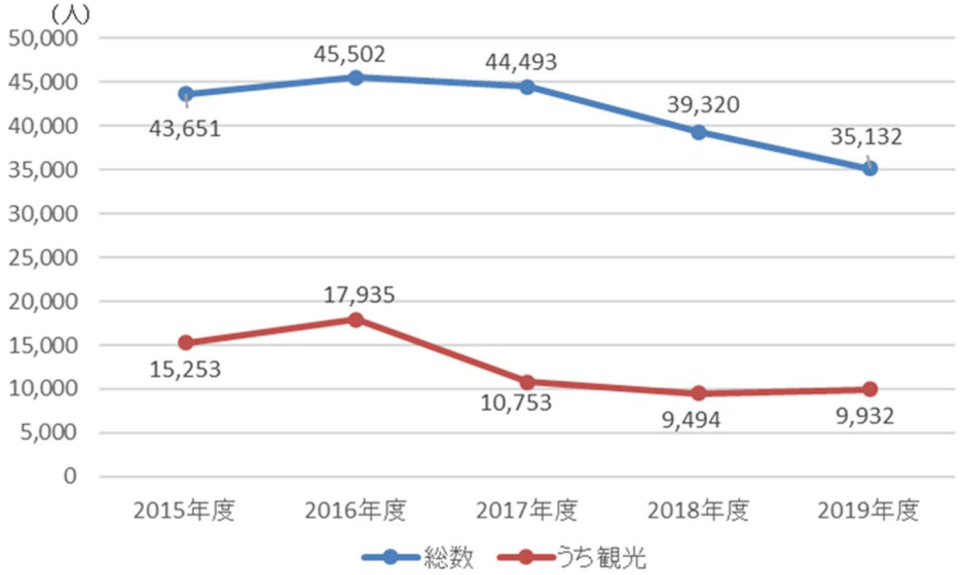
豊田市の主要１０施設の宿泊者数の推移（国内・インバウンド）

【豊田市の日本人宿泊者数の推移】



出典：市内主要１０施設における宿泊者数調査（豊田市）

【豊田市の外国人宿泊者数の推移】

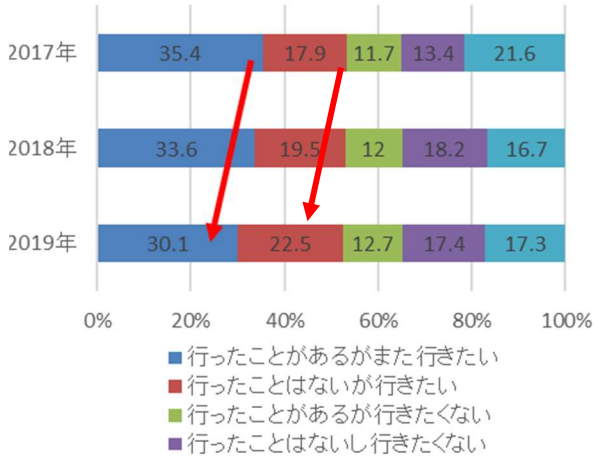


出典：市内主要１０施設における宿泊者数調査（豊田市）

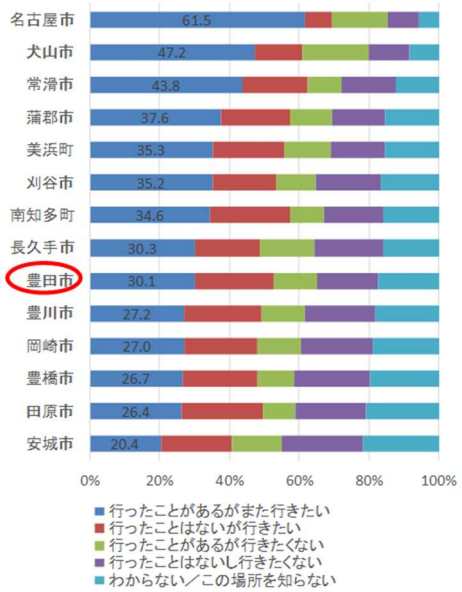
（3）本市への訪問意向

民間企業が実施した消費者に関する調査によると、豊田市への観光での訪問意向は、「行ったことがありまた行きたい」とするリピーター層が年々減少している一方で、「行ったことはないが行きたい」とする潜在需要は伸びています。

■豊田市への観光訪問意向



■愛知県各都市への観光訪問意向

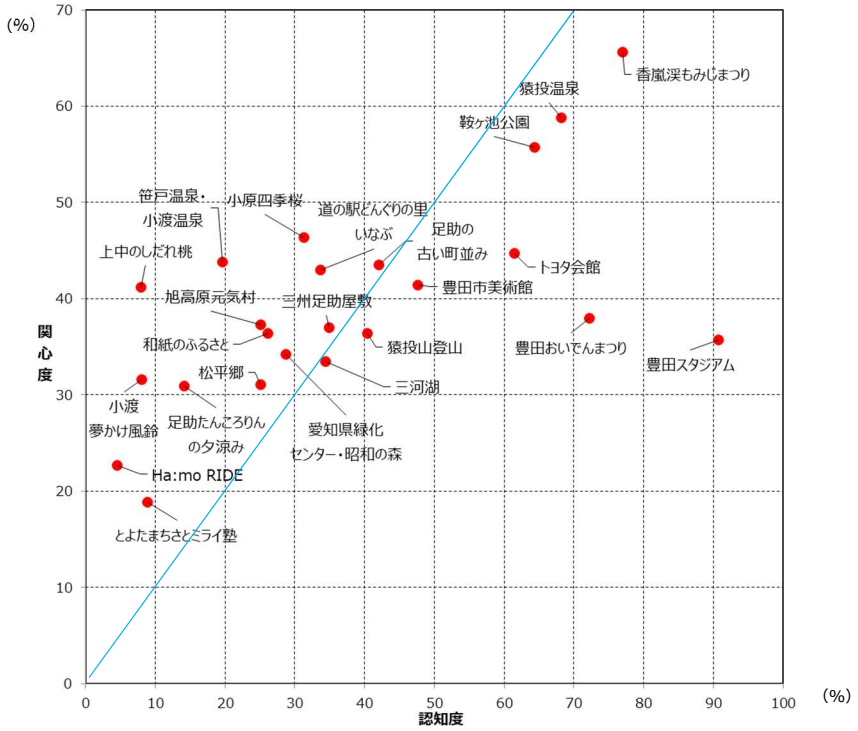


出典：消費者に関する調査（三菱リサーチ＆コンサルティング／中日新聞社）

（4）本市の観光地に関する認知度・関心度

豊田市内の観光地等の認知度・関心度を見ると、（豊田市民を除く）愛知県民の認知度の平均値は38%、関心度の平均値は40%となっています。また、愛知県民の市内観光地等の認知度と関心度の関係性を見ると、認知度が高いものほど関心度も高くなっています。

【愛知県民の市内観光地等の認知度と関心度】



出典：2020 年度　豊田市観光マーケティング調査（ツーリズムとよた）

（５）本市の観光に関する満足度

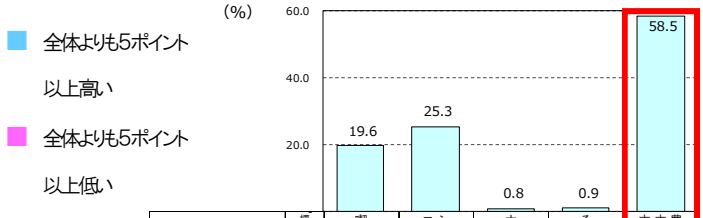
ツーリズムとよたが実施した豊田市観光マーケティング調査（インターネット調査）によると、豊田市内の観光地等来訪時の満足度は、令和２（2020）年は 24.9%となっており、前年度（2019 年度）調査の 26.8%から減少しています。

（６）本市の観光周遊の状況

豊田市内の主要観光地への来訪前後の観光・レジャー以外立ち寄り先を見ると、「豊田市内ではどこも立ち寄っていない・立ち寄る予定はない」が 58.5%となっており、「喫茶・食事」が 19.6%、「ショッピング」が 25.3%となっています。

また、主要観光地での滞在時間を全体で見ると、「１時間以内」が 31%、「１～２時間」が 50%、「３時間以上」が 19%で、平均すると 1.9 時間となり、前年度調査よりも若干短くなっています。

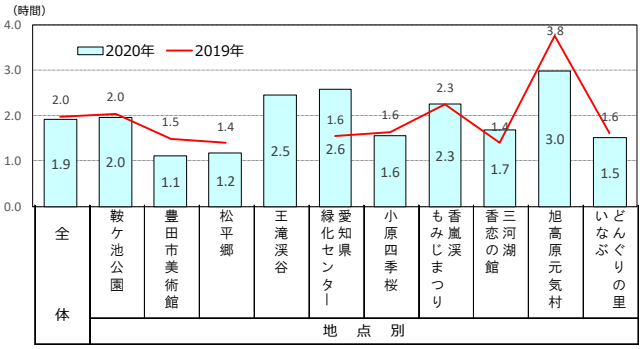
【来訪前後の観光・レジャー以外立ち寄り先】



		標本数	喫茶・食事	ショッピング・コンビニ	ホテル・旅館	その他	豊田市内ではどこも立ち寄っていない・立ち寄る予定はない
全体		1,848	19.6	25.3	0.8	0.9	58.5
地点別	鞍ケ池公園	160	14.4	35.6	0.6	0.6	51.3
	豊田市美術館	180	39.4	26.1	1.1	1.7	42.2
	松平郷	63	15.9	27.0	-	-	57.1
	王滝渓谷	76	9.2	25.0	-	-	65.8
	愛知県緑化センター	117	9.4	35.9	-	-	58.1
	小原四季桜	397	27.5	20.9	1.8	1.0	57.7
	香嵐渓もみじまつり	394	16.2	22.8	0.5	0.8	63.7
	三河湖 香恋の館	149	10.1	32.9	-	1.3	61.7
	旭高原元気村	151	9.9	15.2	-	-	74.8
	どんぐりの里いなぶ	161	23.6	24.8	1.9	1.9	52.8

出典：2020 年度　豊田市観光マーケティング調査（ツーリズムとよた）

【平均滞在時間】



※「王滝渓谷」は 2020 年度調査より追加

出典：2020 年度　豊田市観光マーケティング調査（ツーリズムとよた）

（７）観光関係者からのヒアリング

本計画の策定に先立ち、令和２年（2020）年度に市内７地区において開催した「地区観光会議」などを通じて行った観光関係者からのヒアリングでは、各地区特有の地域資源の有効活用や、各地区の観光協会をはじめとする観光振興の担い手の確保・育成、市内各地区及び周辺他市町村との連携強化を期待する声が比較的多い傾向にありました。

2-4 豊田市の外部環境を取り巻く変化

（1）ライフスタイルの変化

人口減少時代が到来し、旅行マーケットの縮小が懸念される一方で、ライフスタイルの変化などにより女子旅やひとり旅などそれぞれの世代での旅のスタイルが確立され、新たな旅行マーケットを創出しています。

（2）旅行嗜好の多様化・個人化

マーケットの変化とともに、個々の旅行の嗜好は近年多様化が進み、団体で行く物見遊山的観光から自らが楽しむ「コト」観光へと嗜好が変化してきています。

（3）プロモーションのデジタル化

スマートフォンや SNS の普及により、来訪者のデジタル媒体での情報収集が主流になりつつあります。これにより、プロモーションのデジタル化が進むとともに、デジタルを活用したマーケティングが進み、旅マエ、旅ナカなどにおける情報発信強化に生かされています。

（4）ジブリパークの開業

令和４（2022）年秋には、愛･地球博記念公園（長久手市）内に、スタジオジブリ作品の世界観を表現した「ジブリパーク」の一部エリアの開業が予定されています（全面開業は令和５（2023）年を予定）。

開業に伴い多くの観光客の来訪が期待されることから、これらの観光客を市内に取り込むことが求められます。

（5）新型コロナウイルスの影響

新型コロナウイルスの影響により、令和２（2020）年には観光交流人口の大幅な減少が見られました。ウィズコロナ時代においては、海外への旅行については制約が大きいことから、海外旅行需要が国内旅行へ置き換えられ、旅行消費全体のバランスが国内へとシフトする傾向が見られます。

このような流れの中で、国内では、近場で短期間の観光を楽しむ「マイクロツーリズム※1」のニーズが高まってきています。特に、安全・安心に来訪・滞在できるアウトドアを中心とした自然型観光が脚光を浴びており、家族単位やカップル等による少人数単位でのドライブ観光が今後も台頭していくことが予想されます。

インバウンドにおいては、交通移動の制約が大きい中、令和元（2019）年の水準まで回復するには時間を要することが想定されます。新型コロナウイルス感染症が収束するまでは、デジタルプロモーションやセールスレップ※2の活用などの現地移動を伴わないプロモーション活動を展開していくことが効果的であると考えられます。

※1　マイクロツーリズム　自宅から１時間から２時間圏内の地元または近隣への宿泊観光や日帰り観光のこと。
※2　セールスレップ　独立自営の営業主であり、複数の商材を取扱い、販売先に対して提案型の販売を行う者のこと。

2-5 豊田市観光実践計画 2018-2020 の評価

（1）ＫＧＩ（重要業績達成指標）

KGI（Key Goal Indicator）は重要目標達成指標と呼ばれ、最終目標が達成されているかを評価する指標です。前計画では、基本理念である『未来に向けて地域経済を活性化させる観光の振興』に直結する指標として、「観光消費額の増加」、「観光入込客数の増加」、「外国人観光宿泊客数の増加」、「観光客満足度の向上」を KGI として設定しました。

KGI	基準値 ※1	R１実績（2019）	R２実績（2020）	R ２目標値（2020）
【観光消費額の増加】 ①観光客１人当たりの平均消費額（宿泊）	13,477円	9,437円	**10,204円**	**14,024円**
【観光消費額の増加】 ②観光客１人当たりの平均消費額（日帰り）	2,233円	2,026円	**2,168円**	**2,323円**
【観光入込客数の増加】 ③主な観光施設やイベントの観光入込客数	1,135万人	1,056万人	**736万人**	**1,200万人**
【外国人観光宿泊客数の増加】 ※対象施設数：10施設 ④主な宿泊施設での観光目的の外国人宿泊者数	17,395人	9,932人	**ー** ※2	**26,000人**
【観光客満足度の向上】 ⑤訪れた観光地について満足と感じた人の割合	23%	26.8%	**24.9%**	**27%**

※1 基準値については、①～④は平成 28（2016）年（年度）、⑤は平成 29（2017）年（年度）の実績値を採用

※2 令和２年度実績は１２か月分の累計であるため、令和３年度以降に集計予定

（2）ＫＰＩ（重要業績評価指標）

また、KPI（Key Performance Indicator）は重要業績評価指標と呼ばれ、最終目標を達成するための過程を評価する指標です。前計画では、全市的に取り組む８つの主要事業の業績を KPI として設定しました。

KPI	目標（値）	実績（値）
①地区間連携により開発された「連携プロジェクト」の数	２プロジェクト ⇒10プロジェクト	**29プロジェクト**
②無料公衆無線LAN（Wi-Fi）を設置した公共施設数	14施設⇒38施設	**39施設**
③快適な環境を目指す主要観光地の公共施設数(トイレ等)	26施設	**30施設**
④市補助を活用しトイレの洋式化に取り組んだ宿泊施設数	20施設	**7施設**
⑤多言語化した主に既存の案内看板、サイン、標識の数	150基程度	**121基**
⑥とよた観光おもてなしパートナー認定を受けた事業所従業員等の数	100人	**59人**
⑦ツーリズムとよたの年間あたりホームページ総ページビュー数	128万ビュー ⇒180万ビュー	**207万ビュー（見込み）**
⑧豊田市の観光地経営を推進する体制づくり	日本版DMO体制構築	**検討段階**

2-6 これからの観光振興に向けた課題

豊田市の現状や外部環境を取り巻く変化などを踏まえた上で、本市の課題を下記のように整理しました。

課題１：地域資源の掘り起こしによる観光価値の創出

観光客の趣味・嗜好が多様化する中、それらの観光ニーズに応えられる多様な観光の魅力が求められています。また、「マイクロツーリズム」が台頭する中、近隣市町村からの効果的な観光誘客を図る上でも、地域資源を掘り起こし、磨き上げ、観光地としての魅力づくりを進めていく必要があります。豊田市内各地区には古くからある自然や歴史、生活文化などの地域資源があり、これらの資源から観光価値をいかに創出できるかが課題となります。

課題２：滞在時間の延伸による観光消費の増加

地域経済を活性化させるためには、市内の立ち寄り率を高め、各所における魅力を高めることによって滞在時間を伸ばし、飲食や物販、体験、宿泊などの新たな消費機会を生み出していくことが求められます。各観光地の魅力づくりをさらに進めるとともに、観光客のニーズに合わせた観光商品などをつなぎあわせることで、滞在時間の延伸を図る必要があります。

課題３：来訪環境の向上による満足度の向上

市内各地の主要観光施設の来訪者満足度は決して高くなく、繰り返し来訪してもらうためには、観光客の満足度を高めなければなりません。満足度には観光資源自体の魅力もあれば、そこに伴うサービスや受入環境・おもてなしが評価の対象となり、ハード・ソフト両面から観光客に満足してもらえる環境の整備を進めていく必要があります。またウィズコロナ時代では特に観光客の安全・安心に配慮した受入体制の整備が求められます。

課題４：観光の担い手の確保・育成

観光地を持続させていくためには担い手の役割が大変重要です。観光関係者のヒアリングでは、各地区の観光協会をはじめとする観光振興の担い手の確保・育成を図っていきたいという意見が比較的多く挙げられました。観光産業の推進を図っていく上では、観光振興に関わる地域の担い手の確保及び育成を進め、人員体制を強化する必要があります。

課題５：「観光地・観光都市」としての認知度・関心度の向上

より多くの観光客の来訪を促す上では、１人でも多くの方に豊田市の観光資源を認知して頂き、興味・関心を持ってもらえるような取組を実施する必要があります。そのためには、個々の観光資源のプロモーションに加え、「豊田市＝観光都市」としてのイメージが高まるようなプロモーション戦略が必要です。

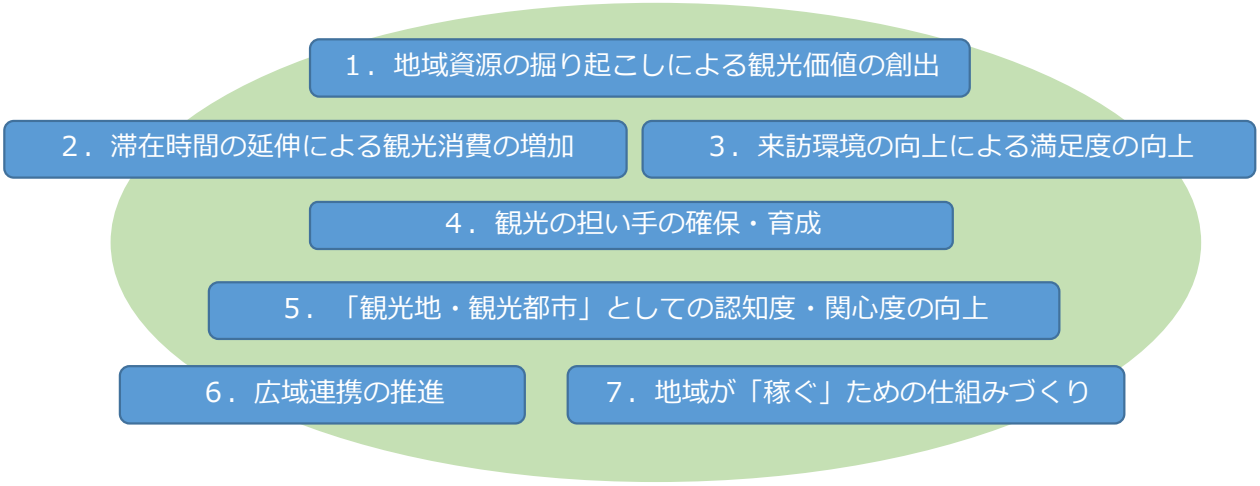
課題６：広域連携の推進

観光関係者へのヒアリングでは、近隣市町村との連携を求める声が比較的多くみられました。また、アフターコロナの時代の観光客の回復をいち早く促す上でも、周辺市町との連携を強化するとともに、県が主導する広域連携のネットワーク等を活用することで、プロモーション効果を高める必要があります。

課題７：地域が「稼ぐ」ための仕組みづくり

観光を産業として成長させ、地域経済の活性化につなげていく上では、「消費につながる魅力的な観光地域づくり（マーケティング）」の視点を持ち、観光振興を地域経済の活性化に生かすことが重要です。そのためには、本市の観光の担い手が個々の力を総合的に発揮して、相乗効果を生み出していくためのネットワークを構築する必要があります。

これからの観光振興に向けた課題



第３章　観光振興の基本的な考え方

3-1　基本理念

観光振興は、山間部を中心に少子化及び高齢化による地域経済の停滞が見込まれる中で、地域経済の活性化に大きく寄与するものと考えられます。

本市には、各地区で古くから守られ、育まれてきた自然や歴史、文化、ものづくり産業など多様で光り輝く地域資源があり、多くの方がその地域資源を目的に本市を訪れています。

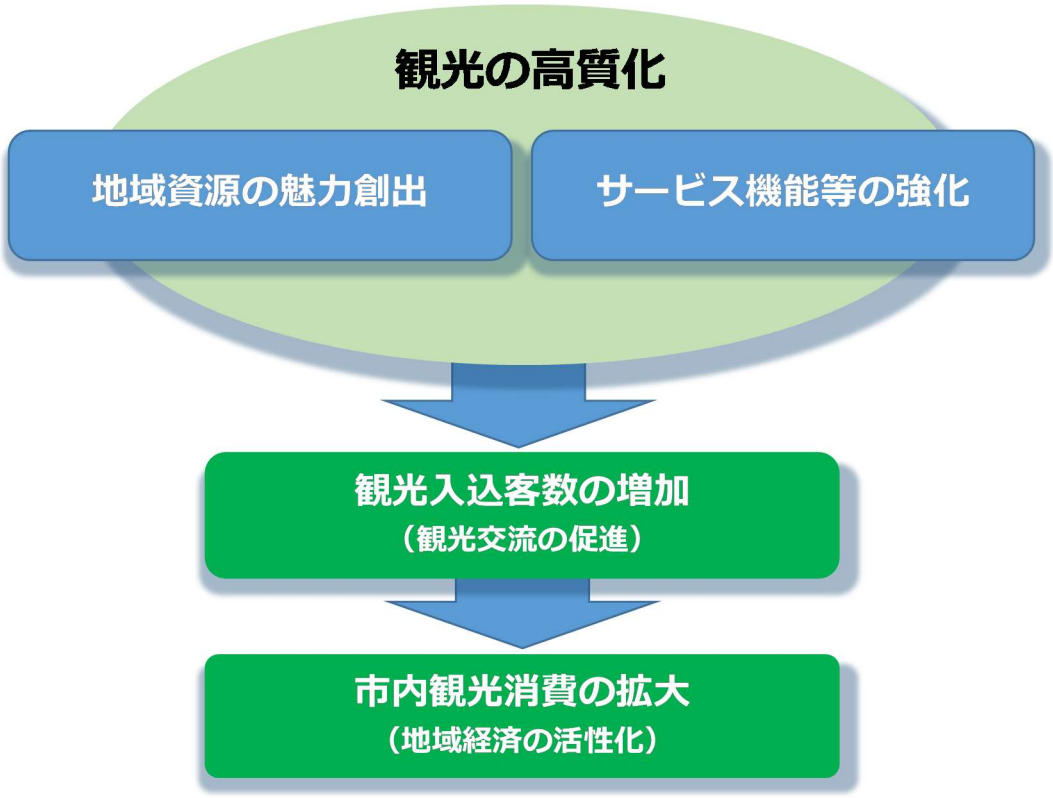
今後もこうした観光資源の魅力を維持・向上し、地域経済の活性化を図っていく上では、各地区の観光まちづくりを大切にしながら、「観光」を地域経済活性化のための手段として捉え、持続可能な観光活動を展開していく必要があります。

こうしたことから、本市における観光振興の基本理念は、前計画を引き継ぎ以下のように設定します。

【基本理念】

未来に向けて地域経済を活性化させる観光の振興

～観光で人がかがやき、観光がまちを一つにする～



3-2 計画の推進体制

前計画の推進体制の考え方である「チームとよた」を継承し、本計画では「All Toyota Tourism」を掲げ、豊田市内各地区が一体となった推進体制をとりながら、観光振興を進めます。豊田市内各地区には様々な観光資源があり、それぞれの地区ならではの魅力があります。各地区の誇りや魅力を再認識し、再評価するとともに、それらの資源の魅力を再創造することにより創出される各地区の強みを、オールとよたの総合力で生かします。まちなかの都市部から山間部まで各地区全ての魅力を活用し、連携や共働による魅力の創出・発信をオールとよたで取り組みます。

3-3 計画の目標値

本計画の目標値においては、下記のように設定します。

なお、目標の基準値については、 本来であれば直近の令和２（2020）年の実績値を採用するところですが、新型コロナウイルス感染症の流行が実績値に与える影響を考慮し、令和元（2019）年の実績値を採用することとします。

①訪れた観光地の満足度

本市の既存の観光資源を存分に生かし、新たな魅力の創出とサービス機能等を高めることにより、観光の高質化を図り、本市を訪れる観光客の満足度の向上を目指します。

観光の高質化

地域資源の魅力創出　サービス機能等の強化

②主な観光地・イベントの観光入込客数

観光地の魅力や認知度・関心度を高め、戦略的なマーケティングと効果的なプロモーションを展開することにより、豊田市全体の観光入込客数の増加を目指します。また、観光入込客数を伸ばすことだけを目的とせず、消費単価を高めることにより、観光消費の拡大に繋げます。

観光入込客数の増加
（観光交流の促進）

③観光客１人当たりの平均消費額

本市を訪れる観光客が満足するような観光地づくりを進め、観光入込客数や周遊率を高める取組を展開することで、市内での観光消費の拡大を目指します。

市内観光消費の拡大
（地域経済の活性化）

目標	目指す状態	基準値（2019）	目標値（2024）
① 訪れた観光地の満足度	↑	26.8%	30%
② 主な観光地・イベントの観光入込客数	→	1,056万人	1,056万人
③-1 観光客１人あたりの平均消費額（日帰り）	↑	2,026円	2,117円
③-2 観光客１人あたりの平均消費額（宿泊）	↑	9,437円	9,908円

3-4 観光振興の主なターゲット

本計画ではより実効性のある計画とするため、本市の外部環境を取り巻く変化や広域性を踏まえ、誘客の主なターゲット（絞り込んで観光商品の売り込みを行う相手）を以下のとおり設定します。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染動向を注視した上で、適切なタイミングでターゲットを拡大し、目標値の達成に向けた取組の推進を図ります。

フェーズ１（ウィズコロナ時代）

ターゲット①　市内在住者及び在勤者

本市の人口は約 42 万人で、東海三県の中では２番目に人口が大きい都市となります。新型コロナウイルス感染症拡大によって、近場で短期間の観光を楽しむ「マイクロツーリズム」のニーズが高まってきているため、市内在住者及び在勤者に市内の魅力を発信し認知してもらうことで、観光交流人口の増加及び市内消費の循環を図ります。

ターゲット②　近隣市町村を含む東海エリア（愛知/岐阜/三重/静岡）

本市は県内９市１町をはじめ、岐阜県恵那市、土岐市、瑞浪市、長野県下伊那郡根羽村と周囲に多くの自治体が隣接しており、交流を支える道路ネットワークが整っているため、こうした近隣市町村の住民を誘客のターゲットとして捉えます。

また名古屋市をはじめとした都心部の住民においては、安全・安心に来訪・滞在できるアウトドアを中心とした自然型観光のニーズが高まっているため、本市の山間部の魅力を発信することで、観光交流人口の増加及び地域経済の活性化を図ります。

拡大

フェーズ２（国内の感染収束）

ターゲット③　主要都市（東京/大阪）

新型コロナウイルス感染症の感染動向や国や県が実施する観光支援事業の実施状況を注視した上で、主要都市からの宿泊を伴う観光を回復・増加させるため、マーケティング調査結果を踏まえた戦略的なプロモーションを実施し、誘客促進を図ります。

拡大

フェーズ３（世界の感染収束）

ターゲット④　インバウンド（アジア圏）

新型コロナウイルス感染症の世界的な感染動向や、入国制限の緩和状況を見極めた上で、比較的に感染状況が落ち着いているアジア圏をターゲットに捉え、本市の観光地の安全・安心を訴求したプロモーションを実施します。

3-5 課題に対する取組の方向性（柱）

基本理念の「未来に向けて地域経済を活性化させる観光の振興」を実現するため、観光振興の課題に対する取組の方向性（柱）を以下に示します。

対応すべき課題	取組の方向性（柱）
課題 1 地域資源の掘り起こしによる観光価値の創出 **課題 2** 滞在時間の延伸による観光消費の増加	**【方向性①】** **ニーズに合った観光の魅力の再創出** (1)各観光地ならではの魅力向上と新たな観光の創出 (2)地域特性を生かした特産品や観光商品の開発、展開
課題 3 来訪環境の向上による満足度の向上 **課題 4** 観光の担い手の確保・育成	**【方向性②】** **受入環境整備と人材育成** (1)地域資源を支える基盤の拡充 (2)安全・安心・おもてなしのための環境づくり (3)観光人材の発掘、育成
課題 5 「観光地・観光都市」としての認知度・関心度の向上 **課題 6** 広域連携の推進	**【方向性③】** **観光客のニーズを踏まえた情報発信** (1)戦略的なプロモーションによる観光ブランドの普及 (2)広域連携を生かした情報発信
課題 7 地域が「稼ぐ」ための仕組みづくり	**【方向性④】** **観光推進体制の構築・強化** (1)全市的な観光マーケティングの推進 (2)各主体の組織力向上と連携強化

3-6 取組の方向性（柱）

対応すべき課題に対する取組の方向性（柱）を以下に示します。

方向性①：ニーズに合った観光の魅力の再創出

(1)各観光地ならではの魅力向上と新たな観光の創出

自然・歴史・文化等、各地区にあるそれぞれの地域資源が有する本来の魅力を磨き上げていくとともに、自然を生かした体験プログラムの開発等、観光資源としての新たな観光の創出を図っていきます。

(2)地域特性を生かした特産品や観光商品の開発、展開

各地区それぞれの特性を生かした食や商品などの特産品や、観光 MaaS※1の活用等により付加価値を高めた観光商品を開発・展開することにより、観光を通した地域の消費を促し、観光消費効果を高めていきます。

方向性②：受入環境整備と人材育成

(1)地域資源を支える基盤の拡充

まちづくり活動の核となる観光拠点を中心に、魅力の向上や機能の維持のため、各拠点の実情に応じた環境整備や修繕・更新を進めていきます。

(2)安全・安心・おもてなしのための環境づくり

誰もが安心して訪れることができる観光地を目指し、観光拠点などにおける安全・安心のための環境整備を進めるとともに、案内機能の充実などにより、来訪しやすいおもてなし環境の充実を図っていきます。

(3)観光人材の発掘、育成

地域に誇りと愛着を持ちながら観光振興を担う人材を発掘・育成するために、観光セミナーの開催や「とよた観光おもてなしパートナー」の育成事業を通じて幅広い観光情報や知識を提供するとともに、各地区での観光振興における課題解決に向けたアドバイザーの派遣を実施します。

※1　MaaS　個人の移動ニーズに対応して、様々な移動手段・サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービス。

方向性③：観光客のニーズを踏まえた情報発信

(1)戦略的なプロモーションによる観光ブランドの普及

マーケティングに基づき、ターゲットに訴求できるプロモーションを展開することで、本市の観光ブランド（地域価値）の普及に努めるとともに、効果的な誘誘客を図ります。

(2)広域連携を生かした情報発信

豊田市への来訪を促すために、愛知県や隣接自治体等との広域連携を展開することで、効果的な情報発信を行います。

方向性④：観光推進体制の構築・強化

(1)全市的な観光マーケティングの推進

豊田市の観光における実態を把握するとともに、確実かつ効果的な誘客を実現するために、マーケティング調査事業等を実施します。また調査結果を活用し、観光関係者に有益な情報を提供します。

(2)各主体の組織力向上と連携強化

「All Toyota Tourism」を推進するために、定期的な観光会議を開催するとともに、豊田市の観光施策を戦略的に推進するための仕組み（組織体制）を検討します。また、各地区の課題等を解決するためにアドバイザー派遣を行い、地域の観光力の底上げを図ります。

第４章　具体的な取組

第４章では、「3-6 取組の方向性（柱）」に基づく各主体の取組内容を示します。
各主体の取組に向けた全体像は以下のとおりです。

基本理念

未来に向けて地域経済を活性化させる観光の振興
～観光で人がかがやき、観光がまちを一つにする～

取組の方向性（柱）

- 方向性１ **ニーズに合った観光の魅力の再創出**
  - （1）各観光地ならではの魅力向上と新たな観光の創出
  - (2) 地域特性を生かした特産品や観光商品の開発、展開
- 方向性２ **受入環境整備と人材育成**
  - (1) 地域資源を支える基盤の拡充
  - (2) 安全・安心・おもてなしのための環境づくり
  - (3) 観光人材の発掘、育成
- 方向性３ **観光客のニーズを踏まえた情報発信**
  - （1）戦略的なプロモーションによる観光ブランドの普及
  - (2) 広域連携を生かした情報発信
- 方向性４ **観光推進体制の構築・強化**
  - （1）全市的な観光マーケティングの推進
  - (2) 各主体の組織力向上と連携強化

4-1 ニーズに合った観光の魅力の再創出

（１）各観光地ならではの魅力向上と新たな観光の創出

① 花の里の拠点整備

花の里「旭」のイメージアップを図るために、既存の観光イベントや旭高原元気村の環境整備を集中的に行います。また、環境整備活動を通して、関係人口の拡大を図ります。

【実施主体】地域団体、旭観光協会、旭支所

② ラリーを中心とするモータースポーツイベントを活用した観光振興

ラリー競技主催団体と連携し、競技の開催と合わせた地域活性化イベントを地域主体で実施します。

「クルマを楽しめるまち」、「モータースポーツが盛んなまち」としての情報発信を実施します。

地域の豊かな観光資源と併せてクルマを楽しむ新たな体験プログラムなどを開発します。

【実施主体】競技主催者、地域団体、観光協会等、稲武支所

③ どんぐりの里いなぶ周辺整備

道の駅の近くに位置する桑原棚田の景観保護や、武田勝頼ゆかりの武節城址（城山）の整備を進めることにより、景勝地及び山里体験の場として観光振興を進めます。

滞留時間を増やすことで交流人口を増加させ、稲武ファンの拡大を図ります。

【実施主体】市民（地域団体）、いなぶ観光協会

④ 四季桜、豊田小原和紙、地歌舞伎など地域資源を活用したまちづくり

他の地域資源や香嵐渓等と連携し、魅力ある四季桜まつりを実施します。

新たな切り口（サブカルチャー等）によるプロモーションを実施します。

地域と共働の取組を行い、多様な地域資源の活用により、一期集中型から通年周遊型観光への転換を図ります。

【実施主体】小原観光協会、市民（地域団体・事業者）
小原支所、小原和紙のふるさと、文化財課

⑤ しもやま観光戦略プラン事業の推進

“冒険！体験！発見！しもやま”を統一コンセプトとし、下山に来たことがない人も集まってくるような、魅力ある観光エリアを実現するために、官民連携でしもやま観光戦略プラン アクションプランの掲載事業を取り組みます。

【実施主体】しもやま観光会議、香恋の里しもやま観光協会、下山商工会、地元事業者、下山支所

⑥ 愛知県緑化センター・昭和の森を拠点とした回遊性の向上

集客力の高い月間に、緑化センター内にインフォメーションを設置し、来訪者へ藤岡地区の観光情報を発信し、季節の見どころ、飲食店、お土産等の周知を図り、観光ＰＲを実施します。

来訪者へアンケート等を行い、立ち寄り箇所数の動向調査を実施します。

「ふじまつり」会場は、ふじの回廊を中心に緑化センター、石畳ふれあい広場など開催箇所数を増やし、まつりの規模拡大を図ります。

【実施主体】藤岡観光協会

⑦ ふじおか回遊ルートの整備、促進

【藤岡支所】

観光によるまちづくりを進め地域の活性化を図るため、当該地区に必要なソフト・ハード事業の計画及び周辺地区を含む回遊ルートを策定します。

地域資源を生かした体験メニュー等を開発します。

【藤岡観光協会】

「ふじまつり・紅葉まつり」のイベント時に、地域バス、シャトルバスを活用した回遊バスを運行します。

「ふじ回廊づくり計画」に位置付けられた「ウォーキングコース」を活用した回遊ルートを策定します。

【実施主体】藤岡観光協会、地域、藤岡支所

⑧ 王滝渓谷周遊促進事業の実施

王滝渓谷内でスタンプラリーを実施し、渓谷内での観光客への周遊と滞在時間の向上を図ります。

【実施主体】松平観光協会、地元事業者、自治区

⑨ 持続可能な観光誘客事業の検討、試行

本市ならではの観光資源を生かし、地域主体の事業、継続を可能にするための収益・運営モデルも考慮した通年型の観光誘客事業を検討・試行します。

【実施主体】商業観光課、各支所、地域（地区観光協会など）、ツーリズムとよた

（２）地域特性を生かした特産品や観光商品の開発、展開

① 地域資源の活用推進と資源を生かした誘客

旭地区の特産品を地域を挙げて売り出す方策について検討・実践し、地域産業の活性化と地域商店への誘客を図ります。

【実施主体】旭観光協会、旭支所

② いなぶ山里体験の充実

地域団体と連携協力し、稲武地区の観光資源の活用を図り、新たな「いなぶ山里体験プログラム」の発掘によるメニューを多様化します。また、既存プログラムの内容を充実させ、魅力ある山里体験を提供し、地域への集客をより強化するための総合的な調整を図ります。

【実施主体】いなぶ観光協会、稲武地区養蚕・製糸文化伝承事業実行委員会

③ 小原地区の地域資源を生かした観光商品づくり

地域資源を生かした特産品の開発を推進します。

来訪者が小原の地域性を体験または体感できる観光商品の開発を推進します。

観光商品の供給体制の構築・整備を図ります。

【実施主体】小原観光協会、小原商工会、市民（地域団体・事業者）

④ 豊田市内（藤岡地区）の地域資源を使った特産品の開発

藤岡商工会が開発した新たな特産品「ふうちゃん焼き」の商品改良を重ね、本格的な商品化を実施します。

フジオカリーナは、加茂丘高校などと連携して幅広い年齢層に親しまれるような事業を展開します。

藤岡地区は「フジの花のまち」であることを PR するため、「フジの花」、「紫色」をテーマとした名物を開発します。

【実施主体】藤岡観光協会、藤岡商工会

⑤ テーマ別観光商品の開発及びプロモーション

「歴史・文化」「自然・四季彩」「アクティビティ」等の様々なテーマに合わせて観光資源を組み合わせることで、魅力ある観光商品を開発します。

観光商品を求める顧客に確実に情報を届けられるよう戦略的にプロモーションを展開します。

【実施主体】ツーリズムとよた、商業観光課、各支所、地区観光協会

4-2 受入環境整備と人材育成

（１）地域資源を支える基盤の拡充

① 香嵐渓整備事業の実施

モミジの質を高め、魅力向上につなげるため、香嵐渓再整備計画を策定し、計画的な間伐や植樹を実施します。

香嵐渓命名 100 年に向け、再整備のために地域の気運醸成を図りながら資金調達の方法や市民、企業、観光客の参画方策を検討します。

【実施主体】足助支所、豊田市足助観光協会、香嵐渓 100 年プロジェクト委員会

② 道の駅どんぐりの里いなぶの再整備の実施

産業振興・観光振興の拠点として、どんぐり横丁の増改築や、イベント広場へのキャノピー（大屋根）の新築等を行い、売場面積の拡充、飲食エリアの充実やイベント利用の増加を図ります。

【実施主体】稲武支所、（株）どんぐりの里いなぶ

③ 四季の回廊ミュージアム構想の継承

四季桜や小原和紙工芸などの地域資源を生かすための共働事業を展開します。

柿ヶ入人道橋設置を図ります。

【実施主体】市民（地域団体、事業者）、小原支所、小原和紙のふるさと

④ 川見四季桜の里とふれあい公園の桜の植替え

川見四季桜の里内の樹木の台帳作成及び診断を行い、植替え・育成計画(長期計画)を策定します。

計画に沿った伐採・植樹や里山林整備事業地への植栽を行い、持続可能な管理体制を構築します。

【実施主体】小原観光協会、市民等、小原支所

⑤ 三河湖周辺環境整備事業の実施

三河湖を中心とし、地区内の自然アクティビティ（体験含む）を楽しむための拠点として、三河湖観光センターの再整備及び周辺観光施設の利活用方法を考え、施策に反映します。

市道二夕瀬草木線の道路修繕を実施します。

【実施主体】下山支所

（２）安全・安心・おもてなしのための環境づくり

① 外国人観光客への観光案内の実施

秋の観光シーズンを中心に、駅前及び各観光地でコミュニケーションに困っている外国人観光客に対応するため、通訳の派遣及び通訳補助機器を活用した多言語案内を実施します。

【実施主体】商業観光課

② 観光ゲートウェイ拠点「とよたびステーション」の充実

「都市部及び山間部の各観光地へ観光客を促す流入口」となる観光ゲートウェイ拠点「とよたびステーション」の認知度向上を図っていくほか、主な機能である観光情報発信及び特産品販売の充実を図っていきます。

【実施主体】商業観光課、ツーリズムとよた、地区観光協会

③ 松平郷園地、王滝渓谷及び猿投山における安全・安心のための環境整備

松平郷園地、王滝渓谷及び猿投山において、観光客の「安全・安心」を確保するため、散策道の改修等の環境整備を進めていきます。また、車で来訪する観光客のための交通環境の整備も併せて進めていきます。

【実施主体】商業観光課、松平観光協会

④ With コロナを踏まえた観光地の受入体制の整備

各観光地において、各地域の実情及び観光地の特性に応じた、「安全・安心」な観光客の受入ができるような手法を検討・実施します。

【実施主体】商業観光課

⑤ 災害に備えた観光客への案内環境の整備

観光客に対して、災害前・災害時に役立つ情報を発していくほか、災害時に誘導できるような環境整備を検討・実施します。

【実施主体】商業観光課

（３）観光人材の発掘、育成

①　「とよた観光おもてなしパートナー」の育成

宿泊事業者や交通事業者などを主なターゲットに、観光スポットに関する知識や観光案内に関するノウハウを習得するための講座を開催し、受講者をパートナーとして認定します。

【実施主体】商業観光課

②　「とよた観光セミナー」の実施

観光関係者のニーズを踏まえながら、テーマやターゲットを定め、定期的にセミナーを開催します。

【実施主体】商業観光課

③ 各地区の課題解決に向けたアドバイザー支援

各地区での観光推進における各種課題に対して、自立的な課題解決に向けてのフォローアップ※1を図るため、各地区観光協会等を対象に、アドバイザーのマッチング※2及び派遣を実施します。

【実施主体】商業観光課

※1　フォローアップ　ある事柄を徹底させるために、あとあとまでよく面倒をみたり、追跡調査をすること。
※2　マッチング　ビジネスとしての交渉の場を設け、つなぎ合わせること。

4-3 観光客のニーズを踏まえた情報発信

（１）戦略的なプロモーションによる観光ブランドの普及

① 市民向けプロモーションの推進

市民が気軽（手軽）にレジャーを楽しむことができるよう市内観光スポット及びイベントの情報を提供します。

【実施主体】ツーリズムとよた、商業観光課

② 豊田市の観光イメージづくり

多様なメディア等を活用し、本市の観光イメージを定着させるために戦略的なプロモーションを実施します。

【実施主体】ツーリズムとよた

③ プロモーション手法の充実

ツーリズムとよた HP の充実（特集ページ等）や SNS を活用した情報発信と HP への誘導、WEB 広告による HP 及び SNS への誘導を行い、広く情報発信するとともに海外現地における広報・営業代行を活用する等、プロモーション手法の充実を図ります。

【実施主体】ツーリズムとよた

（２）広域連携を生かした情報発信

① 愛知県、周辺自治体等との広域連携の推進

県域や市域をまたぐ広域連携協議会等で実施する事業へ積極的に参画する等、本市及び周辺自治体の観光振興を推進します。

【実施主体】商業観光課、ツーリズムとよた

4-4　観光推進体制の構築・強化

（１）全市的な観光マーケティングの推進

①　観光マーケティング調査等による来訪者ニーズの把握

インターネット調査、観光地対面アンケート調査、宿泊動向調査、外国人観光客対面アンケート調査等を実施し、観光消費額、満足度、認知度、リピート率等を確認します。

調査結果を経年把握するとともに、関係者に調査結果を共有し、関係者の事業推進の一助とします。

【実施主体】ツーリズムとよた、商業観光課、各支所

（２）各主体の組織力向上と連携強化

①　定期的な観光会議の開催

「All　Toyota　Tourism」を推進していくため、定期的な観光会議の開催を通じ、観光施策の課題について話し合うとともに、国・県・観光の動向や市の取組についての意見交換・情報共有等を行います。

【実施主体】商業観光課、各支所、地区観光協会、ツーリズムとよた

②　観光地域づくり法人（登録 DMO※1）の体制整備に向けた検討

豊田市の観光施策を戦略的に推進するための仕組み（組織体制）を検討します。

【実施主体】ツーリズムとよた、商業観光課

③　＜再掲＞各地区の課題解決に向けたアドバイザー支援

各地区での観光推進における各種課題に対して、自立的な課題解決に向けてのフォローアップを図るため、各地区観光協会等を対象に、アドバイザーのマッチング及び派遣を実施します。

【実施主体】商業観光課

※1　DMO（観光地域づくり法人）　地域の多様な関係者を巻き込みつつ、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりを行う舵取り役となる法人。

資料編

資料１　計画の策定経過

会議名（会場、日程）	議題
豊田市観光実践計画 2021-2024 準備会 令和２（2020）年２月 12 日 ９：30～11：00 豊田市役所東庁舎７階　東大会議室３	（１）豊田市観光実践計画 2021-2024 について （２）観光動向調査からみる本市の観光の現状 （３）豊田市観光実践計画 2018-2020 の進捗状況 （４）支所・観光協会へのヒアリング結果
第１回地区観光会議 令和２(2020)年７月６日～21 日 市内７地区で開催	（１）豊田市観光実践計画の概要について （２）各地区の観光動向及び事業の進捗状況 （３）豊田市観光実践計画 2021～2024 に向けた意見交換
第１回豊田市観光実践計画 2021-2024 策定委員会 令和２（2020）年７月 30 日 14：00～15：30 豊田市役所南庁舎５階　51 会議室	（１）豊田市観光実践計画 2021-2024 策定委員会組織について （２）豊田市観光実践計画 2021-2024 策定プロセス及び方向性について （３）第１回地区観光会議での意見について
第２回地区観光会議 令和２(2020)年８月 25 日～９月８日 市内７地区で開催	（１）第１回地区観光会議及び第１回策定委員会の結果について （２）全市及び各地区の計画掲載事業案について
第２回豊田市観光実践計画 2021-2024 策定委員会 令和２（2020）年９月 29 日 14：00～15：30 豊田市役所南庁舎５階　51 会議室	（１）第１回策定委員会及び第２回地区観光会議の結果について （２）計画掲載事業案について
第３回豊田市観光実践計画 2021-2024 策定委員会 令和 2(2020）年 12 月 17 日 14：00～15：30 豊田市役所南庁舎５階　51 会議室	（１）計画案について ・計画の目標値について ・観光振興の主なターゲット及び推進体制について ・取組内容について
第４回豊田市観光実践計画 2021-2024 策定委員会 令和 3(2021)年３月 22 日 10:00～12:00 豊田市役所東庁舎７階　東大会議室１	（１）パブリックコメントの結果について （２）計画案について

資料２

豊田市観光実践計画 2021-2024 策定委員

豊田市観光実践計画 2021-2024　策定委員会名簿

	所　　属	職名	氏　　名
1	豊田市産業部	商工振興室長	柴田　徹哉
2	豊田市地域振興部	自治推進室長	後藤　哲也
3	豊田市地域振興部旭支所	支所長	南　良明
4	豊田市地域振興部足助支所	支所長	西　和也
5	豊田市地域振興部稲武支所	支所長	杉山　寿美雄
6	豊田市地域振興部小原支所	支所長	久野　賢児
7	豊田市地域振興部下山支所	支所長	加藤　美貴子
8	豊田市地域振興部藤岡支所	支所長	古巣　道明
9	豊田市地域振興部松平支所	支所長	村中　正史
10	（一社）ツーリズムとよた	専務理事兼 事務局長	山崎　淳
11	旭観光協会	会長	鈴木　正晴
12	豊田市足助観光協会	会長	田口　敏男
13	いなぶ観光協会	会長	大内　政春
14	小原観光協会	会長	尾割　洋介
15	香恋の里しもやま観光協会	会長	柴田　吉朗
16	藤岡観光協会	会長	阿垣　剛史
17	松平観光協会	会長	加藤　勝信
18	（株）とよた山里ホールディングス	代表取締役専務	羽根　博之
19	名古屋学院大学　現代社会学部	教授	古池　嘉和

資料３　地区観光会議

■第１回地区観光会議での意見①

地区	地区観光会議で出た主な意見
【旭地区】 第１回 令和２ (2020）年 7/6(月) 出席者 11 名	・地域資源を案内する**人材（ガイド）を育成**したい。 ・市内の各地区や飯田、明智など近隣自治体と**周遊プラン**の作成などで連携していきたい。 ・現行の観光協会の体制では、新たなイベントを企画等にあたり、地域内に企画力や人材が足りない。 ・これまで観光客のニーズを掴みきれていなかったが、地域資源（文化財でも石仏等）に目を向けると、個人客の掘り起こしができるのではないかと考えている。 ・これから新しく作るのではなく、今あるもの（上中のしだれ桃や昭和の原風景など）を、**SNS などを活用**して効果的に発信していきたい。 ・自然薯は愛知県では２番目の産地であるため、特産品開発に向けた取り組みができると良い。 ・若い方に来てもらうために、知名度がある旭高原から**周辺の観光地を周遊**する流れを作りたい。 ・観光協会内では、多くの人に来てもらうよりも、人がいないということを逆手にとってアピールすることで、付加価値をつけてはどうかというアイデアも出ている。 ・矢作ダムが 50 周年を迎え、現在ではバイクやサイクリング客が多いため、これらの客を取り込みたい。
【稲武地区】 第１回 令和２ (2020）年 7/7(火) 出席者６名	・コロナ禍でどのようにソーシャルディスタンスを保ちながら観光客の受入を行っていくかを考える必要がある。 ・11 月の WRC に向けて、どのように**新型コロナウイルス対策**を行うべきか考える必要がある。 ・香嵐渓や小原では多言語化された看板が設置されているが、稲武地区ではまだ十分にないかと思う。 ・今後も必要な箇所に多言語化看板の設置を検討したい。 ・レンタカー利用者の道の駅への呼び込み方について何か良い手段があれば教えて欲しい。 ・稲武地区は他市町村と隣接しており、**隣接市町村とのつながり**が観光展開の重要な要素の一つとなるため、次期観光計画にどのように組み入れるのか検討して欲しい。 ・観光客にマナーを守っていただけるように、ハード整備以外の部分で、受け入れる側の体制づくりのほか、招かれる側への**情報発信**も必要である。 ・**日本版 DMO** の体制構築が現行観光計画の目標として掲げられているが、地域として日本版 DMO 構築に向けた取組をどのように進めていくのかを示して欲しい。
【下山地区】 第１回 令和２ (2020）年 7/10(金) 出席者 10 名	・しもやま観光会議を昨年から実施しているため、その内容が次期観光計画にも反映されると良いと思う。 ・今後ＷＲＣやアジア大会も開催されるため、**受入環境整備**（Wi-Fi 等）を今からしていく必要がある。 ・また、昨年のラグビーW 杯の反省を受けて、対応策（計画、予算取り）をすぐに検討して欲しい。 ・スポーツなどの**体験型の観光**が注目されているので、ハード整備に費用をかけずに工夫して即効性のある効果を発揮していきたい。 ・豊田の玄関口である駅前に道を聞ける観光案内所がないため、デマンドバスの予約・利用の仕方等、ネットには載っていない情報を提供すれば、地区を知らない人が喜ぶと思う。 ・下山は観光事業者の方々とプランを作り、支所としても支援をしているが、観光実践計画に事業を記載してもらうメリットの提供をして欲しい。（予算付けなど） ・コロナの影響で観光が落ち込んでおり、個人利用が増えていく中、どのようにして観光客の誘客をしていけばいいのか、アドバイスが欲しい。

■第１回地区観光会議での意見②

地区	地区観光会議で出た主な意見
【松平地区】 第１回 令和２ (2020）年 7/13(月) 出席者 17 名	・昨年の王滝渓谷感謝祭は大盛況だったため、他の季節にもイベントを企画し、できるだけ**地元にお金を落ちるような取組**を地域で考えていきたい。 ・王滝渓谷や松平郷の遊歩道の看板整備など**受入環境の向上**が必要だと思う。 ・下山地区の来訪者の一部でも松平地区に来てくれればと考えており、御朱印集めなどの企画では、**タイアップ**して松平地区の旧所・名跡も加えて欲しいと考えている。 ・各観光地をつなぎ、来訪者が移動に困らないような道路の整備が必要だと思う。 ・根引峠など景観が優れた観光資源があるため、今後大規模な開発を希望する事業者がいた場合に、受け入れるための道筋を計画に記載して欲しい。 ・松平城址には石碑があるだけで具体的にイメージしづらいため、VR を利用し、映像として見られるような **PR 方法**を検討して欲しい。
【小原地区】 第１回 令和２ (2020）年 7/14(火) 出席者７名	・新型コロナの関係で、ワクチンができるまでは**「安全・安心」**が重要になるため、その対応を含めどのように取り組んでいくかを考えるのが難しい。 ・アニメ「シキザクラ」は東海エリア初のアニメ作品となるため、小原地区だけでなく**豊田市全体**で盛り上げて欲しい。 ・アニメの舞台として聖地巡礼も期待しているが、地区内の喫茶店など様々な場所でアニメを盛り上げる取組を実施し、オリジナリティのある聖地を作っていきたい。 ・四季桜まつり以外でも**通年での集客**を図るため、小原和紙や小原地区の何気ない風景などの魅力を観光客へ PR していきたい。（そのためにも入込客数だけでなく、他の評価指標を設定して取組を評価して欲しい） ・With コロナの中では、市内を含めた近い場所から観光客に来てもらい、**地域の魅力を再発見**してもらうべきだと思う。
【藤岡地区】 第１回 令和２ (2020）年 7/16(木) 出席者 13 名	・藤岡地区では愛知緑化センター・昭和の森が最も入込客数が多いが、県の研究施設という側面が大きいため、県に掛け合って、観光面での利用促進と魅力向上を図りたい。 ・ふじの回廊については、駐車場の不足が問題だと考えている。 ・城ヶ根山には県外からの観光客も訪れており初心者でも登れるため、PR していきたい。 ・**四季を通して資源をアピール**していきたい。５月にはこいのぼり、６月には蛍、８月にはひまわり、11 月に紅葉のライトアップなどが四季の自然を楽しむことができると思う。 ・歴史と合わせて、矢作川で**体験型の観光コンテンツ**を展開していきたいと考えている。観光資源を組み合わせて、商品価値を高めていきたい。（やなと連携したカヌーと食事セット） ・**人材育成**が重要だと考えているため、地域でチームを作り、勉強していきたい。 ・今すぐの取組はもちろん、10 年後を見据えた内容を取り入れてほしい。 ・地区内の回遊についても引き続き検討していきたい。
【足助地区】 第１回 令和２ (2020）年 7/21(火) 出席者９名	・足助に来たら必ず食べるような名物が作れないかと考えている。 ・香嵐渓の再整備には多額の費用がかかるため、今後の**観光資源の保護**のためにも予算を確保して欲しい。 ・囲炉裏で魚を焼く体験を足助屋敷で実施したところ、お客さんの反応も良く地元にとっても新鮮だった。**地元で当たり前にあったものを掘り起こし、磨いていく**ことが必要だと思う。 ・足助城は最近の山城ブームで多くの観光客が訪れているが、地元住民の中には行ったことがない人もいるため、地元の人も訪れやすく愛される城になるとよい。 ・年間を通じて観光客に来てもらうために、**市内各地区とも連携したプラン**があるとよい。 ・足助には宿泊施設が少ないため、高級ホテルなどが誘致できると地域の価値も上がり、潤うと思う。 ・香嵐渓の園地を外部団体にも積極的に利用してもらい、イベント等で有効活用してほしい。 ・現観光計画の「とよた御朱印プロジェクト」のような**各地区を周遊する取組**を拡充するとよいと思う。 ・地元の祭りやイベントを今後も残していくためにも、**担い手を守り、育成していく**必要があると思う。

■第２回地区観光会議での意見①

地区	地区観光会議で出た主な意見
【旭地区】 第２回 令和２ (2020）年 8/25(火) 出席者 11 名	・石碑等の地域の文化財に歴史的な意味合いがあることを、以前講師から聞いて知った。普段何気なく見ているものを新しい見方で見ることで、**新たな地域資源の価値を発掘**したい。 ・文化資源はただ見るだけでは魅力が伝わらないため、謎解きゲームを交えて周遊してもらえないか考えている。地域の商店や飲食店に立ち寄りながら、謎解きを楽しんでもらえるような仕掛けを考えたい。 ・体験やものづくりに関する商品を考えていきたい。そういった商品は、大人数を捌くことは難しいため、団体旅行よりも小規模旅行と親和性があり、三密を避けることができる。 ・旭高原元気村からの眺めは素晴らしいため、そのような資源を発信していきたい。 ・旅館とタイアップして取組を進めていきたい。 ・市内在住でも旭地区のことを知らない人もいるため、**市民向けの宣伝**が大事だと思う。 ・旭地区は、恵那市に隣接しているため、**広域観光**の視点も重要だと思う。 ・サイクリストが簡単に休憩できる足湯や空気入れの備品がある場所等があるとよい。
【藤岡地区】 第２回 令和２ (2020）年 8/26(水) 出席者 14 名	・サイクリスト向けの簡単な休憩所があると、地元との交流を持つことができてよいと思う。 ・**地区の観光資源を組み合わせ**て、観光客へ提供していきたい。 ・コロナ以降、自家用車を利用した来訪が多い。藤岡は自然を求める人に需要があると感じている。 ・駐車場不足が懸念されるが、農地等を駐車場に整備する補助などがあるとよい。
【松平地区】 第２回 令和２ (2020）年 8/26(水) 出席者 13 名	・全市的な事業の「とよたびステーションの効果的な活用」は、非常に良い取組だと思う。国道 301 号や、豊田松平 IC からの誘引や JA との連携は魅力的だと思う。 ・コロナ禍で自然を求める観光客が多く来訪するため、**観光客の受入態勢**を整えてほしい。特に、駐車場不足が喫緊の課題だと思う。 ・川遊びや山遊びが、自然に触れたい都会の人たちに求められていると思う。豊田市でも、松平地区が自然に触れられる場所として、道路や駐車場を整備する必要があると思う。
【稲武地区】 第２回 令和２ (2020）年 8/27(木) 出席者 6 名	・観光商品の販売の部分については、マーケターやデザイナーから助言がもらえるとカバーできるかと思う。大手事業者でなくとも、デザインや PR 写真についてサポートしてもらえるとよい。 ・山間部では後継者がいない事業者がほとんどかと思うため、そういった事業者を救い上げるためにも、現場のプレーヤーを支援する体制を作ってほしい。 ・豊田市の目指す観光として、経済効果を生むということも重要だとは思うが、後継者不足や文化財の消滅危機に対して観光という手法を用いて対処し、**持続可能なまちづくり**につなげていくという視点も考慮してほしい。 ・全市的な事業案 No.17 の「「登録 DMO」の体制を構築」については、地域の特性を生かした連携を考えていく必要があると思う。 ・稲武地区の魅力は PR すれば広がっていくと思う。上郷 SA や中部国際空港にパンフレットを置くと効果があるのではないか。 ・**新型コロナウイルスへの対応**について、ソーシャルディスタンスが十分に確保できていないところがあり、観光客を迎えるにあたりどのような対応をすればいいのかと考えなければならない。

■第２回地区観光会議での意見②

地区	地区観光会議で出た主な意見
【小原地区】 第２回 令和２ (2020）年 8/28(金) 出席者９名	・小原四季桜まつりの渋滞対策に向けて、臨時駐車場の確保や予約制の導入について計画と照らし合わせて検討していきたい。 ・オールとよたツーリズムとして取り組むことが非常に大きな活性化につながることはよく分かるが、各地区で観光の比重や観光に取り組む意欲が異なるため、総合的な計画になると、ついていけない地区もあるだろう。各地区の現状や特性をもう少し踏まえてもらえるとよい。 ・小原地区は、四季桜のみならず、地歌舞伎や豊田国際紙フォーラムの開催予定もある。小原の観光をトータルで見て、どのようにしていくべきか考える必要がある。 ・オールとよたよりは、オール僻地という考え方もあるだろう。季節ごとの魅力は田舎に多くあるため、**地区間で補完**し合いながら、観光客が満足できるプランを色々と考えてもらえるとよい。 ・観光というと宿泊やお土産と思いがちだが、食べ物も重要である。しかし、食べ物を紹介するだけでは訴求力が弱いため、ある特定の時期だけでも決まった商品を一押しとして売り出してもらえるように、お店の人に協力してもらえる体制を作れないか。 ・観光業は人が重要な資源であるため、**人材育成**が事業の肝になると感じる。ここで事業を行うと儲かるというような、人を呼び込むための情報共有も必要だろう。 ・アニメ「シキザクラ」も放映に向けた準備が進んできている。アニメを小原地区だけのものにせず、豊田市全体で盛り上げたい。
【下山地区】 第２回 令和２ (2020）年 9/1(火) 出席者 10 名	・観光面から**環境整備**（道路）を実現できるとよい。三河湖左岸は一部未舗装であるため、整備をしたい。 ・全市的な事業の「顧客ニーズに応じた観光商品の開発及びプロモーション」について、下山地区は外への**情報発信**が弱点かと思うため、ぜひプロモーションを行ってほしい。 また、資源の掘り起こしは地区で行うため、何を PR すれば良いのか助言をもらえるとありがたい。 ・全市的な事業の「With コロナを踏まえた観光地の受入体制の整備」について、今後**コロナ対策**ができているかどうかが重要な要素となるため、地域一体で対策を行っていることを発信すべきだと思う。 ・全市的な事業の「愛知県・周辺自治体等との広域連携の推進」について、下山地区は新城との観光での連携が全くないため、奥三河の入り口として何か連携できるとよい。（マップ、観光商品連携など） ・コロナ禍ではあるが、下山地区には、小さな子ども連れや若いカップル等、これまでとは異なる客層の来訪が見られるため、事業者にとっては新たな顧客を掴むチャンスである。ここでいかに歓迎の意と感染対策のお願いを PR するかが重要であるが、厳しすぎる感染対策を強いるのはよくないと思う。
【足助地区】 第２回 令和２ (2020）年 9/8(火) 出席者 10 名	・香嵐渓などを今後も生かすためにも、**既存資源の再整備・活用**していくことが重要かと思う。次期観光計画策定に向けて、既存施設の位置付けを明確にすることが、足助地区に限らず他の山間地区でも必要だと思う。 ・地域資源の発掘・維持など地域の小さな事業に対しても補助金などの支援してもらえるとありがたい。 ・飯盛山を整備することで、飯盛山を下りて足助城へ向かうハイキングコースができるため、ツアーとして売ってもらえるとよい。 ・**通年での誘客**を目指すにあたり、足助地区でもアートを切り口にして足を運んでもらうきっかけをつくることもよいと思う。 ・地域資源をいかに使って稼ぐ力を付けることが出来るかが重要だと思う。 ・足助地区の住民があまり香嵐渓に遊びに行っていない現状がある。自分が住む地域への愛着は、**マイクロツーリズム**にもつながるため、こういった観点も次期観光計画の事業に活かせるとよい。

資料４　観光に関する各種調査結果等

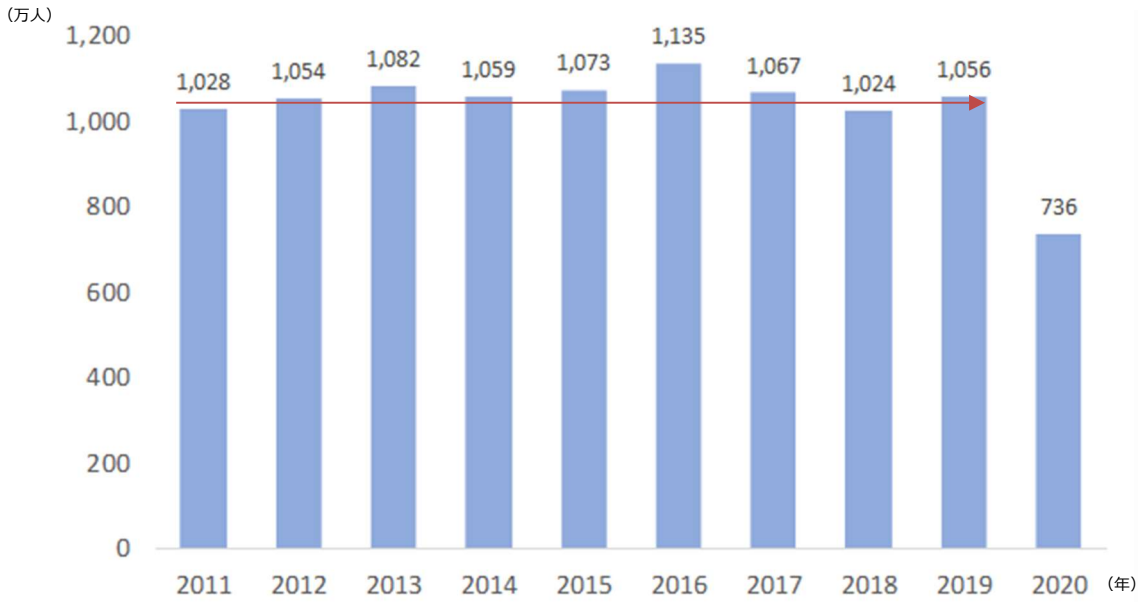
豊田市観光実践計画 2021～2024 の策定にあたり、本市の観光に関する各種調査を実施しました。ここでは、主な調査結果を掲載します。

１．豊田市の観光客数

■　豊田市の観光客数は平成 23（2011）年以降、1,050 万人前後で推移しておりほぼ横ばい傾向にあります。

■　直近５年間でみると平成 28（2016）年に豊田市美術館の企画展の好影響で大幅な増加となっていますが、令和２（2020）年は新型コロナウイルス感染症の影響で、前年比約 30%減少となっています。

【豊田市の観光客数の推移】

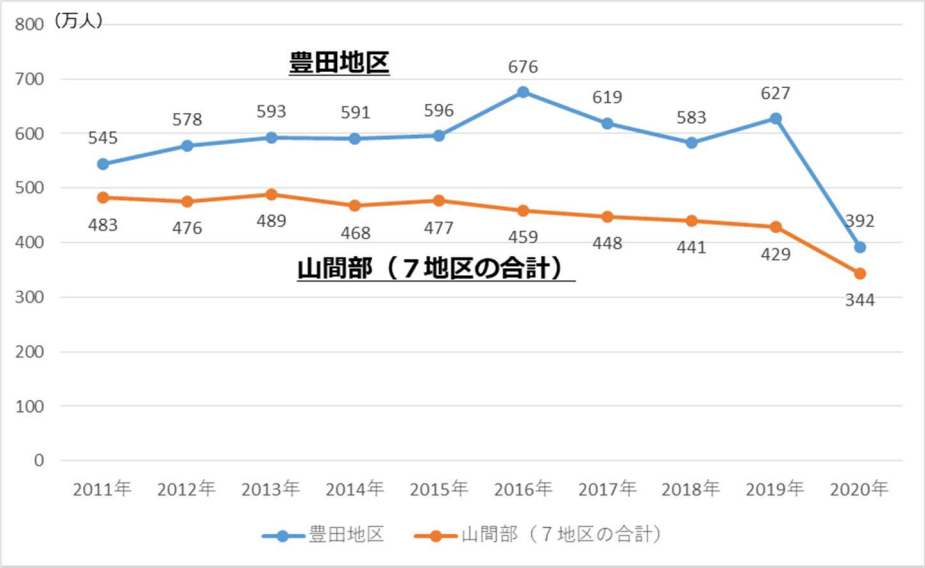


出典：愛知県観光レクリエーション利用者統計（愛知県）を基に作成

2．豊田市の地区別の観光客数の推移

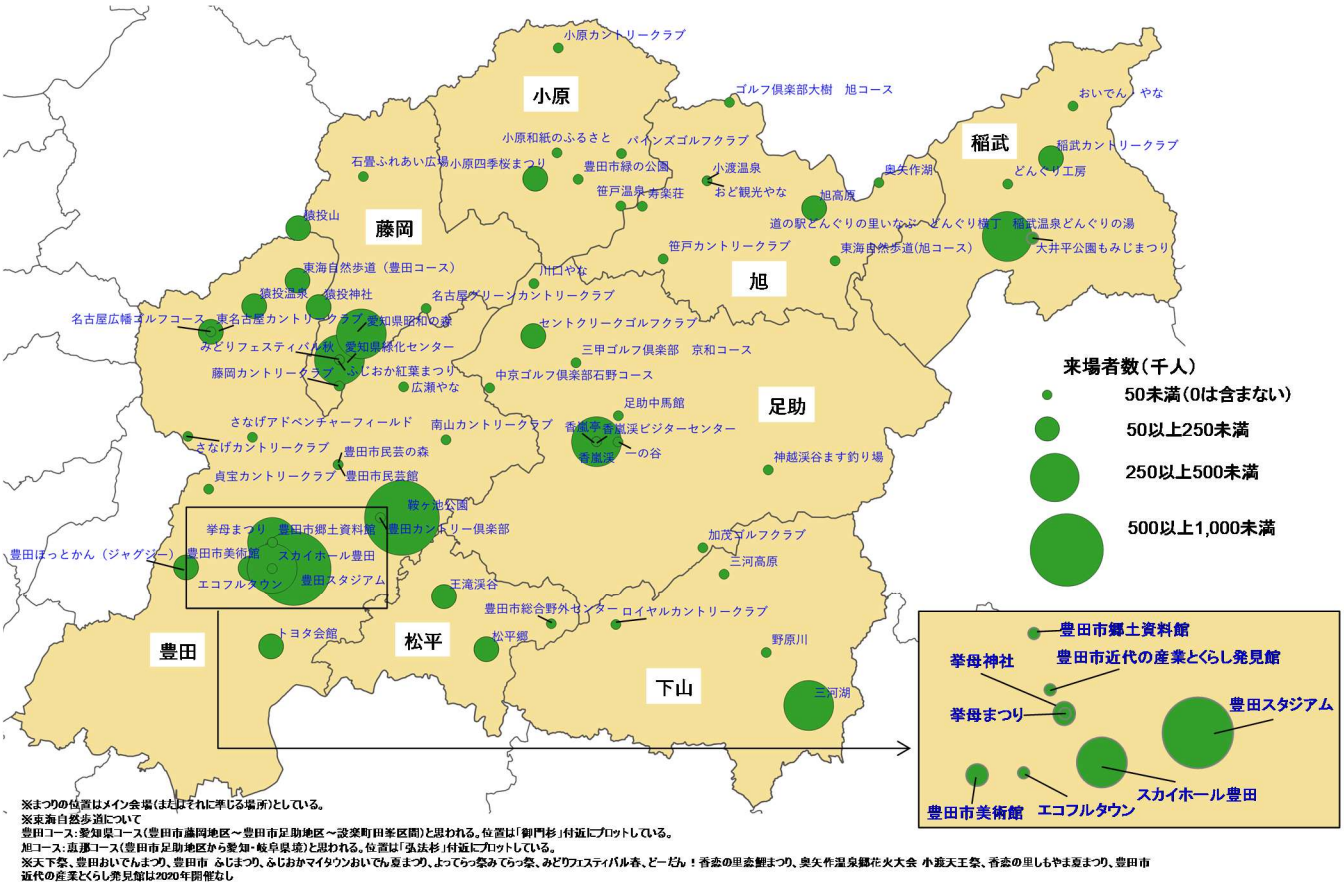
■地区別の観光客数の推移をみると、令和元（2019）年までは豊田地区でやや微増していますが、全体的に直近 5 年間を見てみると漸減傾向となっています。

【豊田市の地区別の観光客数の推移】



出典：愛知県観光レクリエーション利用者統計（愛知県）を基に作成

【豊田市の主要観光施設の立地（2020 年）】

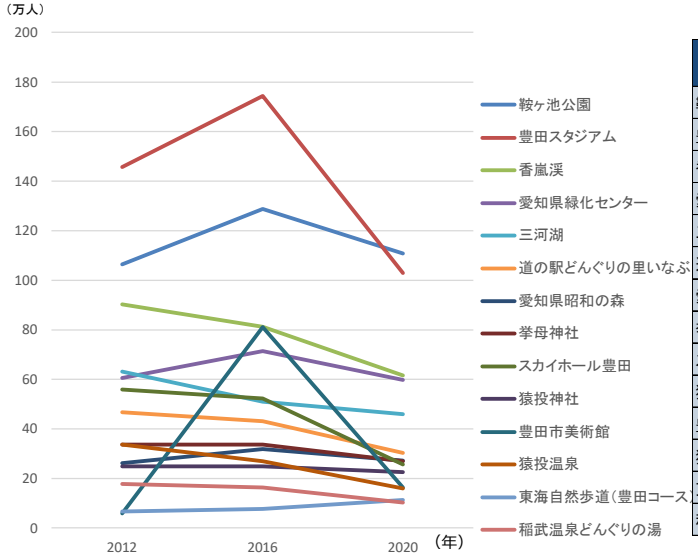


出典：愛知県観光レクリエーション利用者統計（愛知県）を基に作成

3．豊田市の主要施設の観光客数の推移（10 万人以上）

■市内の主要施設の観光客数の推移をみると、令和２（2020）年は新型コロナウイルス感染症の影響で主要施設の大半が減少していますが、東海自然歩道をはじめとした自然を感じることができる施設で観光客が増加しています。

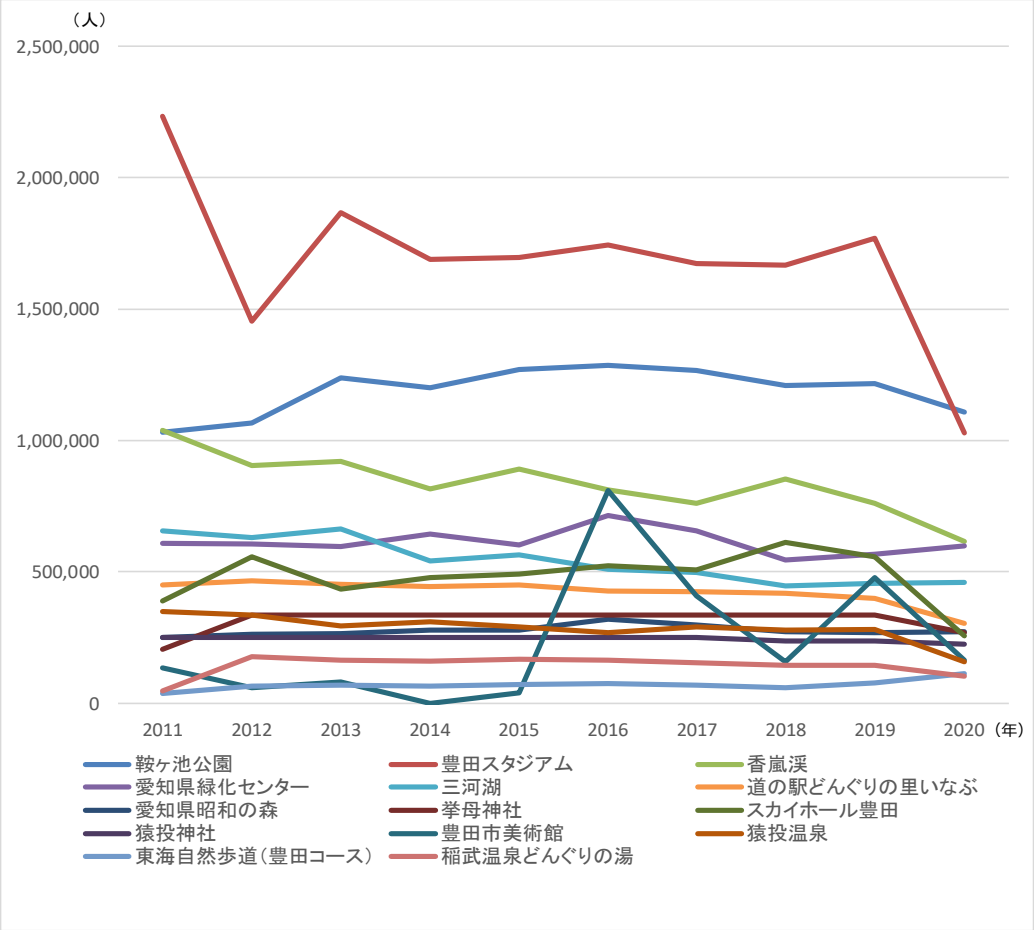
【豊田市の主要施設の観光客数の推移（2020 年に 10 万人以上）】



（単位：万人）	2012	2016	2020	2012→2020 増減率
鞍ヶ池公園	107	129	111	4.0
豊田スタジアム	146	174	103	−29.4
香嵐渓	90	81	62	−31.8
愛知県緑化センター	61	71	60	−1.2
三河湖	63	51	46	−27.1
道の駅どんぐりの里いなぶ	47	43	30	−34.8
愛知県昭和の森	26	32	27	3.9
挙母神社	34	34	27	−19.9
スカイホール豊田	56	52	26	−54.1
猿投神社	25	25	23	−9.3
豊田市美術館	6	81	16	169.4
猿投温泉	34	27	16	−52.5
東海自然歩道（豊田コース）	7	8	11	70.0
稲武温泉どんぐりの湯	18	16	10	−41.4

出典：愛知県観光レクリエーション利用者統計（愛知県）を基に作成

【参考】　主要施設の観光客数の推移（2020 年に 10 万人以上）　詳細版

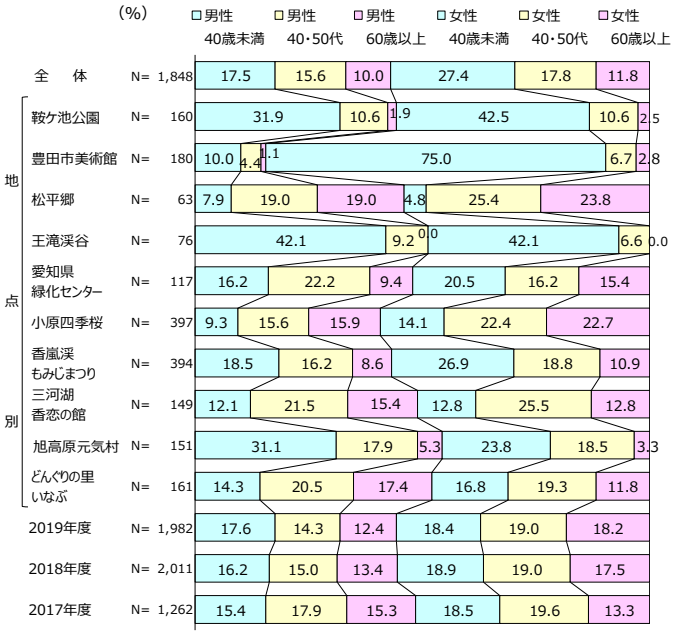


出典：愛知県観光レクリエーション利用者統計（愛知県）を基に作成

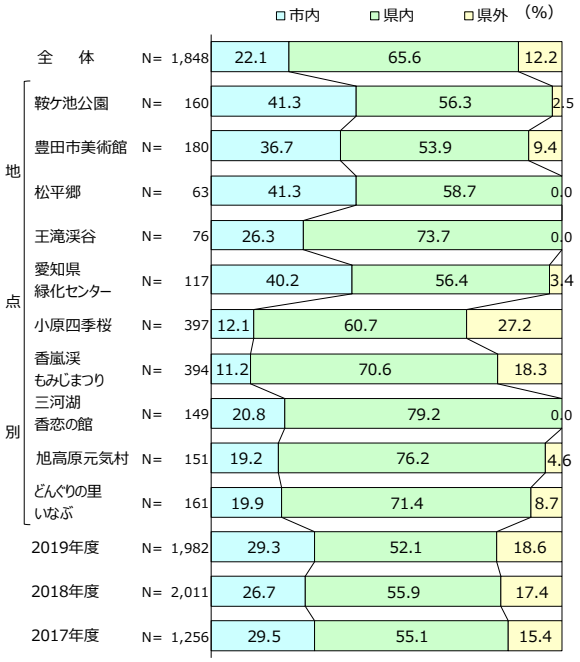
４．観光客の属性

■各観光資源の観光客の属性は下記のような特徴があります。特に、鞍ケ池公園や愛知県緑化センターは市内からの観光客が多く、小原四季桜や香嵐渓は県外からの観光客も多いことが分かります。

【観光客の性別・年齢】

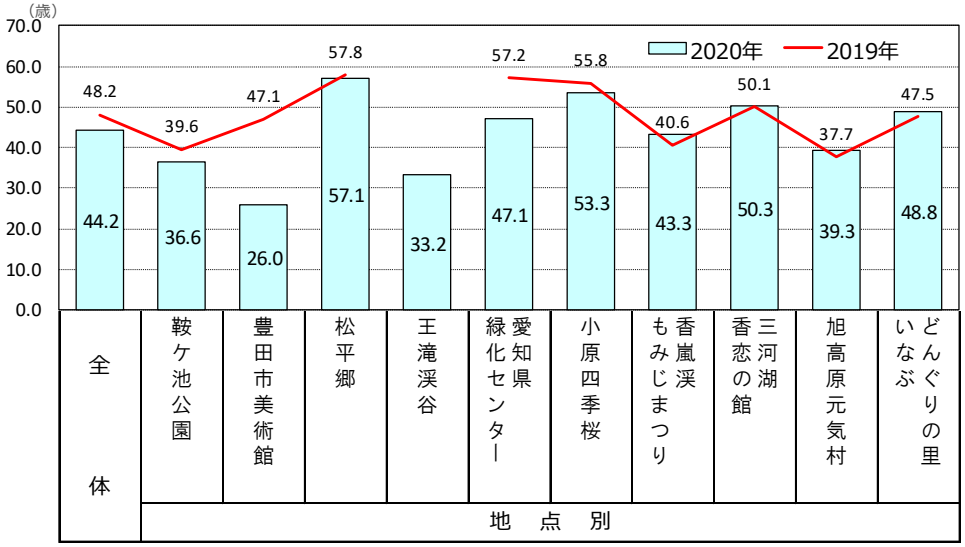


【観光客の居住エリア】



出典：2020 年度豊田市観光マーケティング調査（ツーリズムとよた）

【平均年齢】



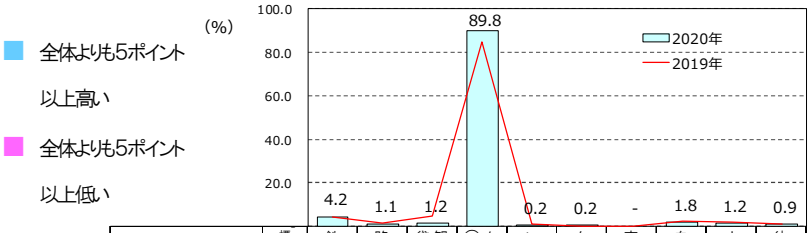
※「王滝渓谷」は 2020 年度調査より追加

出典：2020 年度豊田市観光マーケティング調査（ツーリズムとよた）

5．観光客の属性

■小原四季桜、香嵐渓は団体ツアーのルートとなり、「貸切・観光バス」が約 10%みられます。
■市内全体でみると、89%以上が「クルマ」となっています。
■豊田市の観光はほとんどが「日帰り観光」となっています。

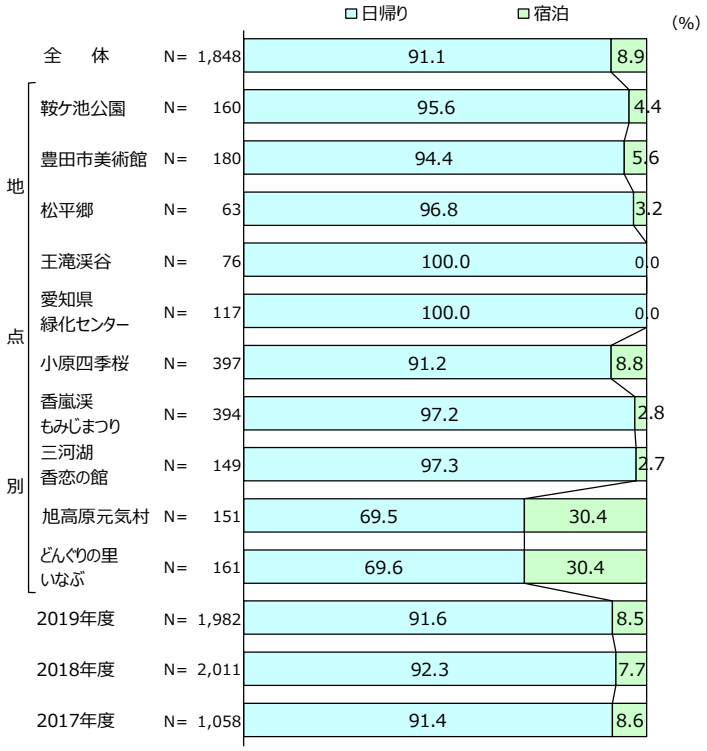
【交通の状況】



		標本数	鉄道	路線バス	観光バス・貸切バス	クルマ（自家用車）	レンタカー	タクシー	宿泊先の送迎	自転車	オートバイ	徒歩のみ
全　体		1,848	4.2	1.1	1.2	89.8	0.2	0.2	-	1.8	1.2	0.9
地点別	鞍ケ池公園	160	-	-	-	98.1	-	-	-	1.3	-	0.6
	豊田市美術館	180	39.4	5.6	-	48.3	-	1.7	-	2.8	-	6.1
	松平郷	63	1.6	4.8	-	92.1	-	-	-	-	1.6	1.6
	王滝渓谷	76	-	-	-	96.1	2.6	-	-	1.3	-	-
	愛知県緑化センター	117	-	-	-	94.9	-	-	-	2.6	1.7	0.9
	小原四季桜	397	-	0.5	4.8	92.2	-	-	-	1.5	1.0	-
	香嵐渓もみじまつり	394	1.3	1.5	1.0	92.6	-	-	-	2.0	2.3	0.5
	三河湖 香恋の館	149	-	-	-	94.6	-	-	-	4.0	1.3	-
	旭高原元気村	151	-	-	-	97.4	1.3	-	-	0.7	0.7	-
	どんぐりの里いなぶ	161	-	-	-	96.3	-	-	-	1.2	2.5	-
2019年度		1,982	4.1	1.4	4.7	84.8	1.1	0.1	-	2.3	1.7	1.1
2018年度		2,011	4.5	1.7	4.8	86.7	0.6	0.0	0.3	1.0	0.8	0.4
2017年度		1,328	2.0		7.1	80.6	0.5		0.3	1.4	5.4	

出典：2020 年度豊田市観光マーケティング調査（ツーリズムとよた）

【日帰り／宿泊の状況】



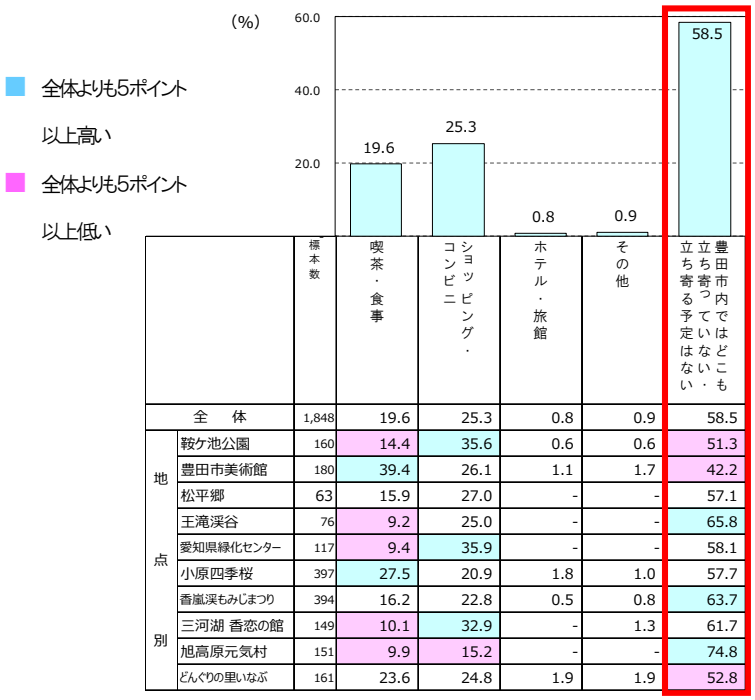
出典：2020 年度豊田市観光マーケティング調査（ツーリズムとよた）

6．豊田市の周遊の状況

■立ち寄り状況（周遊状況）をみると、来訪前後の観光・レジャー以外立ち寄りが少ないことが分かります。

■滞在時間を全体でみると、「1～2 時間」が約 50%となっており、平均 1.9 時間滞在していることが分かります。

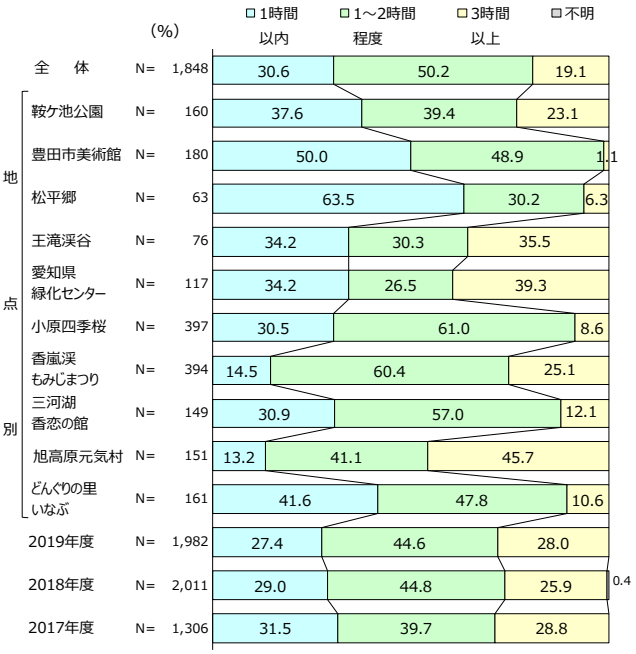
【来訪前後の観光・レジャー以外立ち寄り先】



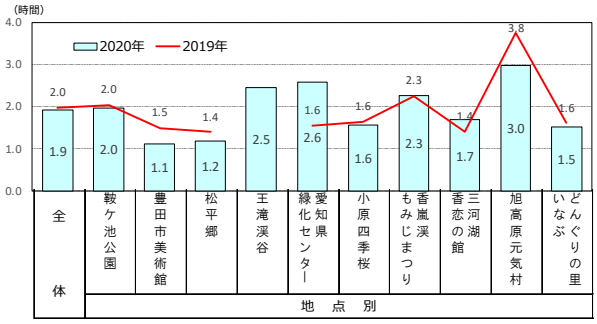
		標本数	喫茶・食事	ショッピング・コンビニ	ホテル・旅館	その他	豊田市内ではどこも立ち寄っていない・立ち寄る予定はない
全　体		1,848	19.6	25.3	0.8	0.9	58.5
地点別	鞍ケ池公園	160	14.4	35.6	0.6	0.6	51.3
	豊田市美術館	180	39.4	26.1	1.1	1.7	42.2
	松平郷	63	15.9	27.0	-	-	57.1
	王滝渓谷	76	9.2	25.0	-	-	65.8
	愛知県緑化センター	117	9.4	35.9	-	-	58.1
	小原四季桜	397	27.5	20.9	1.8	1.0	57.7
	香嵐渓もみじまつり	394	16.2	22.8	0.5	0.8	63.7
	三河湖 香恋の館	149	10.1	32.9	-	1.3	61.7
	旭高原元気村	151	9.9	15.2	-	-	74.8
	どんぐりの里いなぶ	161	23.6	24.8	1.9	1.9	52.8

出典：2020 年度豊田市観光マーケティング調査（ツーリズムとよた）

【滞在時間】



【平均滞在時間】



※「王滝渓谷」は 2020 年度調査より追加

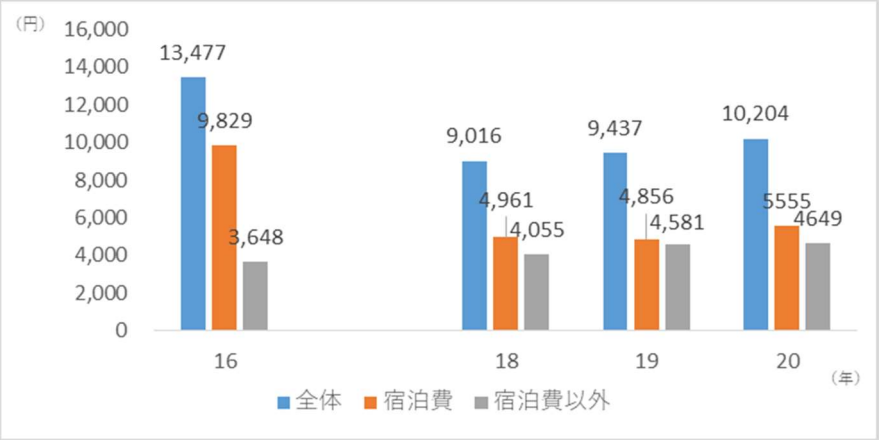
出典：2020 年度豊田市観光マーケティング調査（ツーリズムとよた）

7．豊田市の観光消費の状況

■宿泊旅行者１人当たりの市内観光消費額は、平成 30（2018）年から年々増加しています。

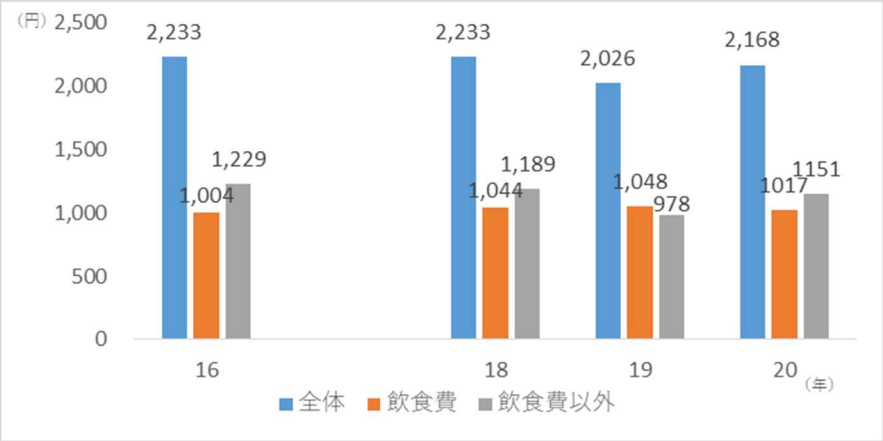
■日帰り旅行者１人あたりの市内観光消費額は、ほぼ横ばいで推移しています。

【宿泊旅行者１人あたりの市内観光消費額の推移】



出典：2019 年度豊田市観光マーケティング調査（ツーリズムとよた）

【日帰り旅行者１人あたりの市内観光消費額の推移】



出典：2019 年度豊田市観光マーケティング調査（ツーリズムとよた）

8．豊田市の観光に関する満足度

■豊田市の観光に関する満足度は、令和元（2019）年が 26.8%となっており、前年より大幅に増加しましたが、令和２（2020）年は 24.9%へと減少しています。

【豊田市の観光に関する満足度の推移】

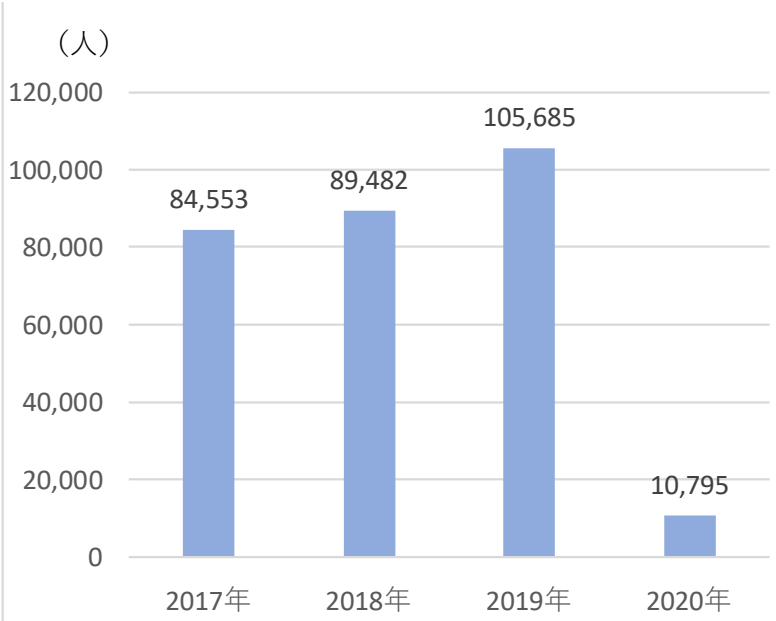
出典：2020 年度豊田市観光マーケティング調査（ツーリズムとよた）

9．豊田市の訪日外国人の推移

■豊田市で訪日外国人の延べ宿泊者数は増加傾向にあります。令和元（2019）年はラグビーワールドカップ 2019™の影響で大幅に増加しましたが、令和２（2020）年は新型コロナウイルス感染症の影響で、大幅に減少しています。

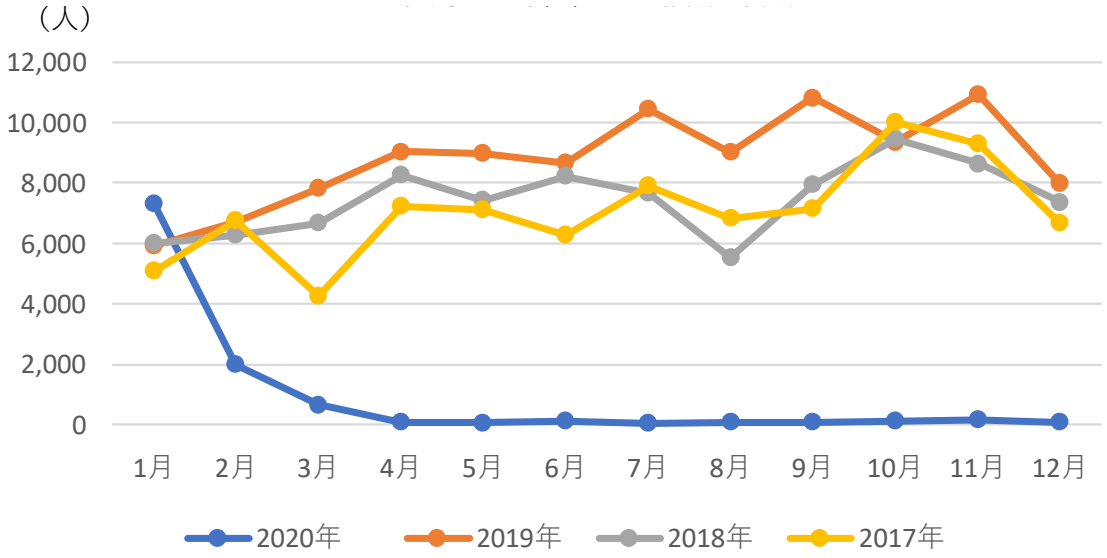
■また月別推移にみると、概ねいずれの年も 10 月・11 月に多い傾向がみられます。

【豊田市の外国人延べ宿泊者数の推移】



出典：宿泊旅行統計（観光庁）を基に作成

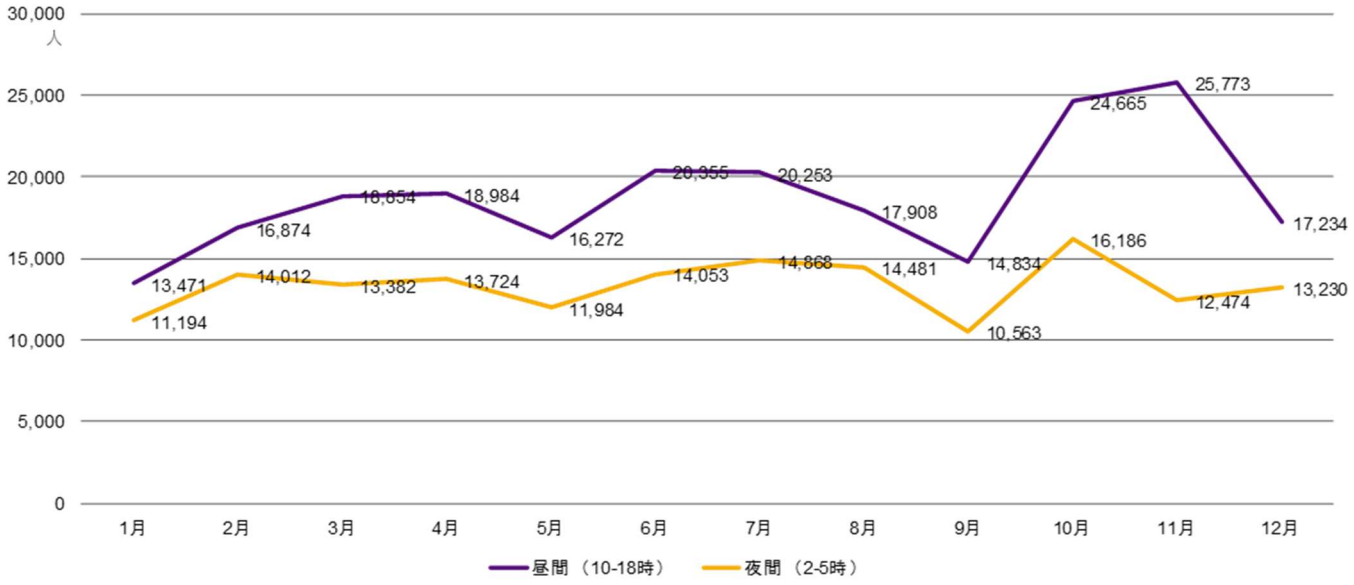
【豊田市の外国人延べ宿泊者数の月別推移】



出典：宿泊旅行統計（観光庁）を基に作成

■経済産業省等が提供する「地域経済分析システム（RESAS）」の情報によると、豊田市の訪日外国人数（昼間）は 10 月、11 月が多くなっており、香嵐渓や小原四季桜の影響が大きいものと考えられます。

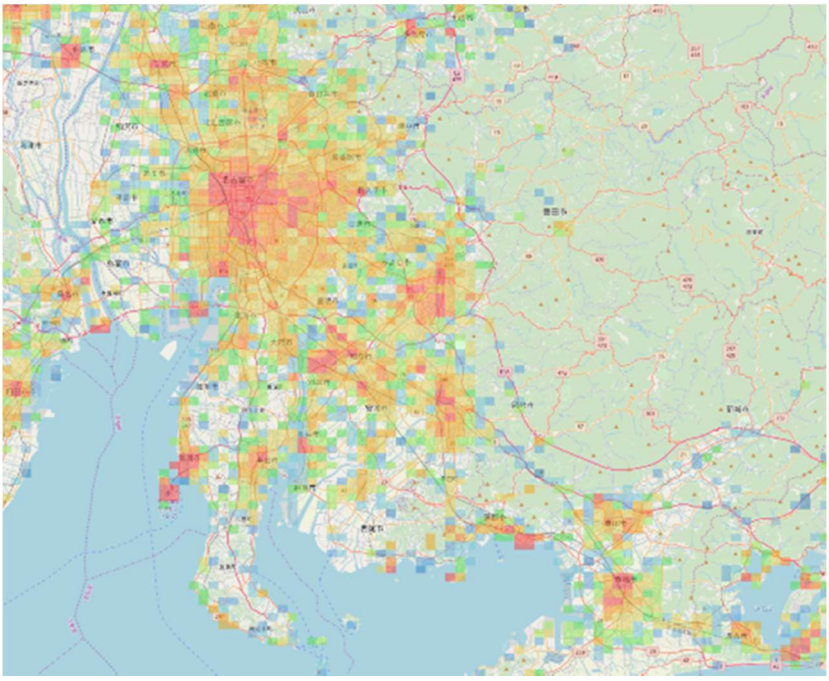
【豊田市訪日外国人数の 2018 年の月別推移】



出典： RESAS（経済産業省）を基に作成

■豊田市で訪日外国人が多いエリア（赤～黄色）は、市街地エリアに加えて香嵐渓となっています。

【豊田市周辺における訪日外国人（2017 年 8 月-2018 年 7 月）】



出典： RESAS（経済産業省）を基に作成

参考　（一社）ツーリズムとよた実施「豊田市観光マーケティング調査概要」

2019年度インターネット調査

【調査概要】

調査目的：豊田市内にある観光地等の認知度や関心度等を生活者視点で捉えるとともに、豊田市の観光情報の接触メディアや来訪時の評価および都市イメージ等を把握することを目的とする。

調査対象：「愛知県」「岐阜県」「三重県」「静岡県」「長野県」「東京都」「大阪府」「石川県」の８都府県に居住する男女

回 収 数：2,244件（予め居住地・性・年代を割り付けて回収）

実査期間：2020 年 1 月 24～28 日

2020年度インターネット調査

【調査概要】

調査目的：豊田市内にある観光地等の認知度や関心度等を生活者視点で捉えるとともに、豊田市の観光情報の接触メディアや来訪時の評価および都市イメージ等を把握することを目的とする。

調査対象：「愛知県」「岐阜県」「三重県」「静岡県」「長野県」「東京都」「大阪府」「石川県」の８都府県に居住する男女

回 収 数：2,244件（予め居住地・性・年代を割り付けて回収）

実査期間：2021 年 1 月 8 日～11 日

2019年度市内観光地来訪者アンケート調査

【調査概要】

調査目的：豊田市内での主要観光地の来訪状況、満足度、観光消費額などを把握して、これまでの取組の検証並びに今後の取組の方向性を検討する基礎データを作成することを目的とする。

調査対象：下表で示した市内の１０ヶ所の観光地に来訪した人

調査方法：インターセプトによる自記式調査、一部、面接調査を併用

回 収 数：1,982件

実査期間：2019 年 8 月～11 月

地点	有効回収票数	実施日	地点	有効回収票数	実施日
全体	**1,982**	―			
鞍ケ池公園	149	9/29	小原四季桜	434	11/16･30
豊田市美術館	150	9/7	香嵐渓もみじまつり	406	11/17･23
猿投山登山口	128	11/2	三河湖香恋の館	147	8/24･9/8
松平郷	123	10/20･26	旭高原元気村	128	8/17･25
愛知県緑化センター	167	11/24	どんぐりの里いなぶ	150	8/31

2020年度市内観光地来訪者アンケート調査

【調査概要】

調査目的：豊田市内での主要観光地の来訪状況、満足度、観光消費額などを把握して、これまでの取組の検証並びに今後の取組の方向性を検討する基礎データを作成することを目的とする。

調査対象：下表で示した市内の９ヶ所の観光地に来訪した人

調査方法：インターセプトによる自記式調査、一部、面接調査を併用

回 収 数：1,848件

実査期間：2020 年 8 月～2021 年 3 月

地点	有効回収票数	実施日	地点	有効回収票数	実施日
全体	**1,848**	―	小原四季桜	397	11/21･22･25･26
鞍ケ池公園	160	9/26･27	香嵐渓もみじまつり	394	11/14･15･17･18
豊田市美術館	180	3/12･13	三河湖香恋の館	149	8/1･2
松平郷･王滝渓谷	139	8/22･23･29	旭高原元気村	151	8/8･9
愛知県緑化センター	117	10/3･4･18	どんぐりの里いなぶ	161	9/5･6

豊田市観光実践計画2021～2024

発行　令和3(2021)年3月
編集　豊田市産業部　商業観光課
〒471-8501 愛知県豊田市西町3-60
Tel:0565-34-6642 FAX:0565-35-4317
メール:shoukan@city.toyota.aichi.jp